

とむる報所

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立室戸青少年自然の家

— National MUROTO Youth Outdoor Learning Center —

第34号

— 令和2年度事業報告等 —



巻頭言

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立室戸青少年自然の家所長
大 向 満

令和２年度に実施した事業等の報告を冊子にまとめました。是非とも御高覧いただき、御意見や御助言を賜りましたら幸甚です。

当施設は、地域の過疎化、少子化、学校行事の過密化による集団宿泊訓練の減少などで、利用者数が減少、稼働率が低迷し、施設を取り巻く環境は厳しい状況にあります。しかし、地域の財産である室戸ジオパークを舞台とした活動や、近年需要が高まっている防災プログラムやイングリッシュキャンプなど、既に人気が定着している海の活動以外にも施設の特色を打ち出していき、利用者の確保、増大につなげていきたいと考えています。

しかしながら、令和２年度事業の実施においては、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、やむなく多くの事業を中止せざるを得なくなりました。また、開催できた事業においても開催日程の縮小、募集人数の削減等、参加者が安心して事業に参加できるよう、新しい生活様式に沿った形での開催となり、参加者の皆さんにはたいへんご不便をおかけすることとなりましたこと、どうかご理解をいただきたいと思います。

最後に、コロナ禍で多くの制限がかかる中、令和２年度の事業等の実施にあたっては、研修指導員やボランティアリーダーの皆様から多くの支えをいただきましたこと、心よりお礼を申し上げます。

これからも、皆様の一層の御支援と御協力をいただきますようお願いいたします。

令和３年３月

目 次

令和2年度事業報告

教育事業

●体験！発見！ジオパーク（マリンスポーツ編）	1
●体験！発見！ジオパーク（室戸の海森編）	4
●体験！発見！ジオパーク（防災学習編）	6
●体験！発見！ジオパーク（歴史・文化編）	9
●むろと元気塾	12
●ボランティア養成講座	14
●イングリッシュキャンプ	18
●アート夢プロジェクト「親子で芸術鑑賞」	23
●自然体験活動指導者養成研修（NEALコーディネーター）	25
●のびのびM（メイキング）キャンプ	29

研修支援

●ドキドキわくわくカヤック&SUP体験	31
---------------------	----

むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業

●生き物ウォッチング2020 in 室戸ユネスコ世界ジオパーク	35
●室戸においでよ！家族day!!	38
●ジュニアクラブ（生き物観察とピザ作り編）	40
●ジュニアクラブ（満天の星空編）	42
●くろしおいっしょにあそぼう通信	52

管理運営報告	54
--------	----

広報活動	57
------	----

利用実績	58
------	----

体験！発見！ジオパーク(マリンスポーツ編)

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動をととして、青少年のチャレンジ精神、社会性、創造性を育む。

○ 実施期間

令和2年8月11日（火）～令和2年8月13日（木）2泊3日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学4年生から6年生までの児童 20名／20名

○ 活動プログラム

8／11（火）	8／12（水）	8／13（木）
9:30 高知方面迎え出発	6:00 起床	6:00 起床
10:00 徳島方面迎え出発	7:30 朝食【食堂】	7:30 朝食【食堂】
12:15 海浜活動センター着	8:30 自然の家発	8:30 自然の家発
12:20 開講式	10:00 白浜海水浴場着	9:00 海浜活動センター着
12:30 昼食【弁当】	11:00 海上アスレチック体験	9:45 SUP（室戸岬新港とろむ）
13:30 スノーケリング （室戸岬新港とろむ）	12:00 昼食【弁当】	11:45 海浜活動センター着 片付け・着替えなど
16:30 海浜活動センター発	13:00 海水浴	12:15 昼食【弁当】
17:00 自然の家着 入所オリエンテーション	15:00 白浜海水浴場発	13:15 閉講式
17:45 夕食【食堂】	16:30 自然の家着	13:30 海浜活動センター発
19:00 暗闇探検	17:45 夕食【食堂】	15:30 徳島方面最終下車
20:00 入浴	20:00 入浴	16:15 高知方面最終下車

2. 活動の様子

<1日目>

開講式後、グループに分かれて昼食を取り、午後の活動であるスノーケリングの準備を行った。

初めに、スノーケリングで使用する道具の正しい使い方について学習した。特に、スノーケルマスクについては、バディで互いに確認し合うことで、正しい装着の仕方を知ることができた。その後、海の駅とろむへ移動し、スノーケリングの活動を行った。バディと一緒に行動し、とろむ港内にいる小さな魚やウニ、フグといった様々な生き物を観察することができた。スノーケリングの体験を通して、バディで楽しみながら活動している姿が多く見られた。

夕食後は、夜間の活動として、暗闇探検を行った。グループに分かれて真っ暗な道を歩いていると、虫の音や牛の鳴き声をかすかに聞くことができた。星を見る丘に到着して辺りを見渡すと、綺麗に光る室戸の町を見ることができた。また、活動開始直後は曇っていたが、徐々に晴れ間も見え、星空を観察することができた。



< 2日目 >

2日目は、東洋町の白浜海水浴場で活動を行った。午前中は、四国最大級の海上アスレチック「Beach Hopping」に参加し、スライダーやトランポリンなどの遊具を利用した。バランスをとるのが困難なため、何度も落水していたが、楽しみながら遊具に挑戦する姿が多く見られた。

午後は、グループごとに海水浴を行い、大きな波に乗ってタイミングよく跳んだり、パディと一緒に泳いだりして楽しむことができた。



< 3日目 >

最終日は、海の駅とろむでSUPの活動を行った。今年度は、ソーシャルディスタンス確保のため、1艇につき4名を定員として、少人数グループでSUPの活動に取り組んだ。

初めて乗るメガSUPに驚きながらも、友達と楽しみながら挑戦する姿が見られた。最初は上手にバランスをとることができず、安定して漕ぐことができなかったが、練習を重ねることで、パドルの正しい使い方やバランスのとり方を自分なりに習得し、SUPを上手に漕艇できるようになった。

3日間を通して、多くのマリンスポーツを体験することで、仲間との絆を深めることができた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・スノーケリングで、たくさんの魚を見ることができた。
- ・海上アスレチックに行くことができて嬉しかった。
- ・ビーチホッピングで何回も海に落ちたけど、とても楽しかった。
- ・SUPには初めて乗ったが、バランスをとるのが難しかった。

○ 事業の成果

- ・スノーケリングの活動を通して、海にいる生き物や自然により興味・関心をもつことができるようになった。
- ・海の活動で必要な道具の使い方を正しく学ぶことができた。
- ・海での活動を通して、仲間と協力し、助け合うことの大切さを学ぶことができた。
- ・定員をこれまでの半数とすることで、ソーシャルディスタンスを十分に確保しながら活動を行うことができた。

○ 事業の課題

- ・熱中症対策を確実に行之い、水分補給を適宜行えるように、準備する必要がある。
- ・海上アスレチックに参加する際は、職員数を多くすることで安全に十分配慮する。
- ・引き続き、新型コロナウイルスの状況に応じて、感染防止対策を行い、リスクを軽減していく必要がある。

体験！発見！ジオパーク(室戸の海・森編)

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動を通して、青少年のチャレンジ精神、社会性、創造性を育む。

○ 実施期間

令和2年8月22日(土)～令和2年8月23日(日) 1泊2日

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4年生から6年生までの児童 (19名/20名)

(体験！発見！ジオパーク マリンスポーツ編の落選者より抽選)

○ 活動プログラム

8/22(土)	8/23(土)
9:30 高知方面迎え出発	6:00 起床
12:00 海の駅とろむ 着	7:30 朝食【森の中で野外炊事】
12:15 開講式	9:00 活動のまとめ
12:30 昼食【各自で持参の弁当】	9:30 閉講式
13:30 カヤック&SUP (室戸岬漁港新港)	10:00 送迎バス 自然の家発
16:30 海の駅とろむ 発	12:30 送迎バス 最終到着
17:00 自然の家着 入所オリエンテーション	
17:45 夕食【食堂】	
19:00 室戸の森の暗闇探検	
20:00 入浴	
21:30 就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

海の駅とろむに集合し、持参した昼食を食べた後、海の活動を体験した。フローティングジャケットを着用して水慣れ体験のため、海の中に入った。浮力の確認を十分に行ってからバディシステムを守って、シーカヤックとスタンドアップパドルボードの活動を行った。2種類の異なるパドルスポーツを行ったが、参加者はそれぞれの特性を掴み、すぐに自由に海面を動き回れるようになっていた。

自然の家へ移動してからの夜の活動では、悪天候のため「森の暗闇体験」を屋内活動に変更した。他団体の利用がなかったため、全館の照明を落とし、施設内での暗闇探検を実施した。

<2日目>



早めの起床後、朝食のためのカートンドッグを自分たちで調製し、「星を見る丘」へ移動した。森の中を移動し、自然の家の全景や遠くの室戸岬までを一望できる展望台でカートンドッグに火をつけ、朝食をとった。自然の家へ戻ってからは自分たちの使った場所をしっかりと清掃して、帰り支度を行った。2日間の思い出を振り返った閉講式のあと、送迎バスで帰路についた。



3. 事業の成果と課題

○ 事業の成果

体験!発見!ジオパーク(マリンスポーツ編)において定員を大きく超過する応募があったことにより、急遽追加事業として設定した。開催日程の調整に難航したが、コロナ禍で短縮となった夏休み中に実施することができた。事業日の翌日から新学期がスタートする学校も多いことから、早めに帰宅できるタイムテーブルの中でプログラムを構築した。

室戸の海と森を体感することを主眼に、海の活動ではではシーカヤックとスタンドアップパドル、森の活動では(悪天候で中止となったが)ナイトハイクと朝食を持参しての早朝ハイクを設定した。夜の活動以外は天候に恵まれ予定通りのアクティビティでプログラムを実施することができた。

コロナ禍での「新しい生活様式」に対応しながら安全性を第一に実施した。今年度2回目の宿泊型事業となったが、新様式に対応した事業形態としてのフォーマットを確立できたと考える。

○ 事業の課題

- ・各大学の生活ガイドラインによる制約があり、法人ボランティアの確保が難しかった。
- ・コロナ禍での自宅生活が長かったため、参加者の体力面の負荷を軽減する変更を急遽行なった。
- ・各事業での参加応募者数が想定をはるかに上回り、ニーズに応えきれない状況が発生している。「新しい生活様式」での社会状況の激変下にある中で、施設の提供する体験活動へのニーズは明らかに高まりを見せている。世間の期待に応えられるべく、我々の使命を果たしていきたい。

体験！発見！ジオパーク(防災学習編)

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動を通して、青少年のチャレンジ精神、社会性、創造性を育むとともに、大地の誕生や生命の営みについての興味・関心を高める。

○ 実施期間

令和2年10月3日（土）～令和2年10月4日（日）1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学4年生から6年生までの児童 17名／20名

○ 活動プログラム

10／3（土）	10／4（日）
9:30 はりまや橋観光バスターミナル発	6:00 起床
12:00 室戸世界ジオパークセンター着	7:30 朝食（食堂）
12:10 昼食（弁当）	8:30 室戸岬探検（岬探勝）
12:50 開講式	講師：高橋 唯氏
13:00 室戸世界ジオパークセンター見学	11:00 室戸岬探検・続編
14:30 入所式、オリエンテーション	「付加体実験キット作成」
15:00 避難所運営ゲーム「HUG」（体育館）	（ジオパークセンター）
16:40 避難所体験プログラム①（研修室1）	12:00 昼食（弁当）
17:30 夕食（食堂）	12:40 ふり返り、閉講式
19:00 避難所体験プログラム②	13:30 ジオパークセンター発
（プレイルーム、研修室3）	高知市内送り
21:00 就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

室戸世界ジオパークセンターにて今回の防災学習がスタートした。室戸ジオパーク推進協議会地質専門員の高橋唯氏に南海トラフ地震の話をしていただき、地震の起こる仕組みなどを学んだ。地震や防災に関する問題をプロジェクターを使いながらクイズ形式で出してくれたため、子供たちは楽しく学習することができた。波と津波の違いやタンポポが非常食になることなどに驚いていた。その後、ジオパークセンターの見学をし、防災学習に対して知りたいことや疑問点を浮き彫りにすることで、これからの活動に対して、主体的に関わっていこうとする意欲を高めることができた。

それから室戸青少年自然の家に行き、3つの班に分かれて避難所運営ゲーム「HUG」を体験した。体育館を避難所として、色々な人の部屋割りを考えたり、次々に起こるミッション（イベン

ト)にどう対応していくか子供たちは大人顔負けのアイデアを出し合ったりすることができた。ご高齢の方や赤ちゃん、体の不自由な方の配慮がしっかりできていた。

夕方からは新聞でスリッパや枕などの防災グッズを作ったり、ダンボールで自分の寝場所を作ったりした。

夜は、お風呂に入れない体験として濡れタオルで体を拭き、レスキューシートに身を包んで自作の寝場所で寝た。非日常的な生活にも対応している子供たちの姿にたくましさを感じた一日だった。



< 2日目 >

2日目は、博士（高橋唯氏）の案内で室戸岬探検に行った。

子供たちは、不思議な形をしたアコウの木や 2000 万年前の海底にあった、しましまの地層（タービダイト）を目の前で見て、自然の不思議さやパワーに驚いていた。班対抗で水切り大会などをして楽しむこともできた。石の投げ方が分からない子供も少なくなかったが、どの子供も興味津々で、投げ方を教えてあげるとコツをつかみ歓声をあげながら次々と海に投げ込んでいた。

次に、グループで話し合いながら地図を頼りに津波避難場所を目指し、避難体験を行った。最初、間違った方向に進むグループもいたが、国道沿いに展示されている地図も参考にしながら自分たちの力だけで避難場所に辿り着くことができた。

その後、ジオパークセンターで付加体キットを作った。付加体とは、海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込む時に、海洋プレートの上の堆積物がはぎ取られ、陸側に付加したものである。フェルトや木材、金具を接着剤でくっつけて、付加体が形成される様子が分かる実験キットを作った。友だちにやり方を教えてあげている子供もいた。

最後の子供たちからの感想発表では、「防災のことで知ったことを家に帰ってやってみたい。」と言った子供もいた。ただ分かった、楽しかったという言葉ではなく、そういった感想が出てきたことがとても嬉しく思えた。子供たちは2日間の体験を通して、自然の怖さや尊さを知るとともに、いずれ来る南海トラフ地震への備えを自分のこととして考えることができたのではないかと考える。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ダンボールの家作りがとっても楽しかったです。
- ・クイズやゲームとかができて、協力もできて楽しかった。
- ・「HUG」がおもしろかった！また来たいと思いました。
- ・私は新聞紙で色々な物が作れることが分かりました。なので、防災グッズの中に新聞紙を入れようと思いました。
- ・防災グッズの作り方が分かってよかった。ダンボールで寝床を作れて、それで寝たのが楽しかった。
- ・色々な所へ行って、防災や津波のことが学べてよかったです。また来ます。
- ・今度は友だちとも来てみたい。
- ・防災の学習をして、何かあった時にどういことをすればいいのかを学習することができたのでよかったです。

○ 事業の成果

- ・室戸ジオパーク推進協議会地質専門員の高橋唯氏から南海トラフ地震の話や室戸岬の案内をしていただいたことで、地震の起こる仕組みや室戸の自然、防災についての理解が深まった。また、プロジェクターを使いながらクイズ形式で問題を出したり、班で協力して課題を解決させたりすることで、子供たちは楽しく学習することができた。
- ・避難所運営ゲーム「HUG」や避難所体験を通して、日頃から防災に備えることが重要であることを考えることができた。また、避難生活では自分のことだけを考えるのではなく、みんなで協力することの大切さや素晴らしさを感じることができた。

○ 事業の課題

- ・今回の事業は、衣食住の住にテーマを置いて活動を行った。住に関しては子供たちの感想からも分かるように、自分で自分の寝る場所を作ることが貴重な体験となったと考えるが、衣食住のテーマがここで完結したことにより、それぞれの実践の成果をこれからどのように結び付けていくのか、整理して考えていきたい。

体験！発見！ジオパーク(歴史・文化編)

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動を通して、青少年のチャレンジ精神、社会性、創造性を育む。

○ 実施期間

令和3年3月20日(土)～21日(日) 1泊2日

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4年生から6年生までの児童 16名/18名

○ 活動プログラム

3/20(土)	3/21(日)
9:30 はりまや橋観光バスターミナル発	6:30 起床
12:00 室戸世界ジオパークセンター着	7:45 朝食(食堂)
12:10 開講式	9:00 おにぎり&豚汁作り 「自分たちで作った塩を使って おにぎり&豚汁を作ろう！」
12:30 昼食	11:30 昼食
13:20 移動	12:30 ふりかえり・アンケート
13:30 アクアファーム見学 「海洋深層水ってなんだろう？」 (深海魚にエサやり体験&水飲み比べ等)	12:50 おわりのつどい
14:50 自然の家に移動	13:00 送迎バス発
15:00 塩作り体験 「海洋深層水から塩を作ってみよう！」	15:30 はりまや橋観光バスターミナル着
17:30 夕食(食堂)	
19:15 キーホルダー作り(プラ板) 「好きな海の生物のキーホルダーを作ろう！」	
20:15 入浴・就寝準備	
21:30 消灯・就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

室戸世界ジオパークセンターにて今回の歴史・文化学習がスタートした。室戸ジオパーク推進協議会地理専門員の中村昭文氏にジオパークの意味や塩作りのことについて話をいただいた。映像を見ながら説明してくれたため、子供たちは楽しく学ぶことができた。また、3Dメガネをつけて四国や室戸の海の地形のことも教えていただき、視覚的に内容を捉えることができた。

その後アクアファームに移動し、海洋深層水について学んだ。室戸市産業振興課の山川氏は、子

供たちにわかりやすい言葉で楽しく教えてくださった。硬水と軟水の飲み比べやにがりの味見をし、深海魚を触ったりエサやりを体験したりした。子供たちは大変喜び、館内に歓声が響いた。

室戸青少年自然の家に着いてから、今回のメインである塩作り体験をした。班で協力しながら海洋深層水（濃縮水）を鍋に入れて沸かし、何度かフィルターで濾してフライパンで水分を飛ばして沢山の塩をとることができた。「こんなに塩がとれるんだ～！」と子供たちは驚いていた。

夕食後、昼間に触れあった室戸の深海魚のキーホルダー作りを行った。みんな絵がとても上手で、色とりどりにぬり、オリジナルの素敵なキーホルダーができた。

事業のスタート時にはバス移動などの疲れも見られたが、深海魚の触れ合いや塩作り、キーホルダー作りなど、夢中になって積極的に活動している子供たちの様子が印象的な一日であった。



< 2日目 >

歴史・文化編 2日目は、野外炊事棟で「おにぎり＆豚汁作り」を行った。

前日に自分たちで作った塩を使って、塩むすびを作った。薪で火をおこすのは昨日に引き続きということで、効率よく上手におこせていた。炊いた米を一人一人茶碗に入れ、塩をふりかけ、ラップで思い思いの形ににぎった。どの子供も「とても美味しい。」と評判であった。

豚汁は、普段家で料理をしない子供も包丁の使い方をボランティアリーダーに教えてもらいながら沢山の食材を慎重に切っていた。完成した豚汁は具沢山だったが、あっという間にお鍋が空っぽになるほど美味しく作ることができた。

初めて出会った子供たちが協力しながら火をおこしたり、食材を切ったり食器洗いや掃除をしたりする様子はとても立派で、いい体験として思い出に残ってもらえればいいなと思ったことだった。

体験後のアンケートには、「新しい友達ができ、一緒に活動したり協力したりすることができて本当に楽しかったです。」「友達もできて、おいしい物も食べられたので来てよかったと思います。また来たいです。」という感想があり、とても嬉しく思えた。

子供たちは2日間の体験を通して、海洋深層水や深海魚を身近に感じるとともに室戸の歴史や文化について考えることができたのではないかと考える。この体験により、今度は自分が住む地域の

歴史や文化に目がいくようになってくれればと願う。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・新しい友達ができ、一緒に活動したり協力したりすることができて本当に楽しかったです
- ・友達もできて、おいしい物も食べられたので来てよかったと思います。また来たいです。
- ・みんなが優しく話しかけてくれたから、とてもうれしかったです。
- ・みんなで協力して火をおこしたり、おにぎりや豚汁を作ったりして楽しかったです。友だちも作れた。
- ・おもしろかった。
- ・キーホルダー作りが楽しかったです。また参加したいです。

○ 事業の成果

- ・室戸ジオパーク推進協議会地理専門員の中村昭文氏や室戸市産業振興課の山川氏から海洋深層水や塩のことについて説明をしていただいたことで、室戸の地形や歴史・文化についての理解が深まった。また、その後に行う塩作りの活動に目的意識を持って向かうことができた。
- ・普段の食事では何気なく使っている塩。その調味料を自分たちで作り、それを使った料理を作り、食す。普段なかなかしないことを体験することで、料理自体に興味を持つだけでなく、その食材や調味料はどこから来たのだろうか？誰が作ったのだろうか？などと物の裏側にあるルーツや歴史や文化にまで目を向ける一助になったのではないかと考える。
- ・子供たちの感想からもわかるように、誰かとともに活動したり協力したりすることの楽しさや素晴らしさを感じることができた。

○ 事業の課題

- ・子供たちは、どの活動も班で協力しながら楽しみつつ意欲的に活動していた。室戸ジオパークセンターやアクアファームでも積極的に質問をしていた。2日間の活動の流れもよかったように思うが、しいて言うならば、おにぎり&豚汁作りの際もしくは最後に、前日の海洋深層水の学習を振り返る時間や言葉かけをし、室戸の歴史や文化に再度目を向けさせるようにした方がよかったのかもしれない。来年度に向けた課題としたい。

むろと元気塾

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

自然体験活動をととして、児童のコミュニケーション能力を高めるとともに自己肯定感の向上を図る。

○ 実施期間

令和2年8月18日（火）

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

安芸和光寮、ちぐさを利用している児童 23名／30名

○ 活動プログラム

	8月18日（火曜日）
7:00	ちぐさ発 (途中トイレ休憩 7:50 頃・・・ローソン安芸芸西村店)
8:20	安芸駅で和光寮の車2台と合流 (途中トイレ休憩 8:50 頃・・・羽根休憩所)
9:30	とろむ着
9:50	A・・・ドルフィンスイム、 C・・・SUP
11:30	B・・・ドルフィンスイム、 A・・・SUP
12:00	C・・・昼食
12:40	AB・・・昼食
13:10	C・・・ドルフィンスイム
13:20	B・・・SUP
14:50	感想等
15:10	とろむ発 (途中トイレ休憩 15:40 頃・・・羽根休憩所) (途中トイレ休憩 16:20 頃・・・安芸駅) ※和光寮は安芸駅には寄らずそのまま帰路へ
17:30	ちぐさ着

2. 活動の様子

今年度は、安芸和光寮とちぐさを利用している児童を対象として、むろと元気塾を行った。安芸和光寮とちぐさの職員を含めた23名が本事業に参加した。

3つのグループに分かれ、ローテーションでSUPとドルフィンスイムの活動を行った。また待っている時にも楽しんでもらえるように、海辺の比較的浅い場所で泳いで魚を観たり海の生物を触ったりする機会も設けた。

SUP体験では、ライフジャケットが安全に着れているか友だちと互いにチェックし合ったり、仲間と声をかけ合ってパドルを漕ぐ姿が見られた。どの参加者もいきいきとして、とても楽しそうに活動することができていた。ドルフィンスイムでは初めて見るイルカに少し怖がりながらも、イルカと一緒に泳いだり触れたりする活動を通して、徐々にイルカに慣れ楽しむことができた。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ サップが楽しかった。落ちても浮かんで楽しかったです。
- ・ つかれたけど、みんなで遊べたことが一番うれしいです。おぼれないか心配だったけど、おぼれなかったのよかったです。また今度も来たいです。
- ・ 初めてイルカと泳いだりしてとても楽しかった。イルカと仲良くなれた気がしてうれしかった。
- ・ 今年はコロナもあり、子どもたちが安全に楽しく活動できることはないかと職員一同悩んでおりましたが、子どもたちの夏の思い出作りができました。
- ・ 久しぶりに子どもたちのいきいきした姿が見られて嬉しく思います。普段海に行く機会がないので、楽しめたと思います。待っている児童への配慮もしていただき、良かったです。

○ 事業の成果

- ・ 昨年度の反省を活かし、SUPの活動とドルフィンスイムの活動の両方の活動を全てのこどもたちが体験できたことはよかった。
- ・ 活動の最初と最後に参加者の子どもたちや職員全員の前で挨拶や感想を言えたことは、子どもたちの自信になり自己肯定感の向上にもつながった。
- ・ 活動前はSUPに乗ることを不安がる参加者もいたが、友だちと協力して活動する中で笑顔が増え、SUPの楽しさを感じている姿を見ることができた。
- ・ 海の活動を体験する中で参加者同士でコミュニケーションを取り、意欲的に関わることができていた。年上の児童が年下の児童のお世話をしたり、教えてあげたりしていた。
- ・ 職員の方からは、こどもたちが帰宅後も「楽しかった。」「また行きたい。」という声があったことを教えていただき、大変嬉しく思った。

○ 事業の課題

- ・ 活動中、決まった子ども同士の関わりが多く見られたため、安芸和光寮とちぐさの子どもたち全員で協力して行うことができる交流的な活動を取り入れる必要があると感じた。
- ・ 今年度はコロナの影響があり、日帰りでの事業になってしまったことは致し方なかった面があるが、来年度はどのような状況であろうと参加者の皆さんが安心して泊まり楽しく活動ができるような準備とプレゼンをしたいと考える。

ボランティア養成講座

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

子供たちの体験活動に関わる上で必要とされる野外活動のスキルや安全管理、体験活動の意義や青少年教育施設の取組の実際について、実習や講義を通して学ぶことにより、ボランティアとして子供たちとともに活動し、自然体験活動の楽しさや喜びを伝えることができる青年の育成を図る。

○ 実施期間

第1回 令和2年10月31日（土）～令和2年11月1日（日） 1泊2日

第2回 令和2年11月28日（土）～令和2年11月29日（日） 1泊2日

○ 対象者・参加者数

当施設の法人ボランティアとして活動する意思のある者、小学校等が実施する自然体験活動を支援する意思のある高校生以上の者。（第1回 15人、第2回 22人）

○ 活動プログラム

第1回	10月31日（日）		11月1日（日）
11:30	開講式・ガイダンス（0.5h）	07:15	朝のつどい（講座の一環として特別実施）
12:00	昼食	07:30	朝食
12:30	青少年教育施設の現状と運営（1.0h）	08:30	ボランティア活動の技術（4.0h）
13:30	安全管理①（2.0h）	13:00	ボランティア活動の意義（1.5h）
15:30	安全管理②（1.0h） 普通救命講習	14:30	閉講式
16:40	青少年教育（1.5h）		
18:10	夕食・配宿・ベッドメイク・入浴		
20:00	青少年教育におけるボランティア活動（2.0h）		
22:00	消灯		

第2回	11月28日（土）		11月29日（日）
11:30	開講式・ガイダンス（0.5h）	07:15	朝のつどい（講座の一環として特別実施）
12:00	昼食	07:30	朝食
12:30	青少年教育施設の現状と運営（1.0h）	09:00	安全管理①（2.0h）
13:30	青少年教育におけるボランティア活動（2.0h）	11:00	安全管理②（1.0h） 普通救命講習
15:30	ボランティア活動の技術①（2.0h）	12:00	昼食
17:30	夕食・配宿・ベッドメイク・入浴	13:00	ボランティア活動の意義（1.5h）
18:30	ボランティア活動の技術②（2.0h）	14:30	閉講式
20:15	青少年教育（1.5h）		
22:00	消灯		

○ 講師

室戸市消防本部室戸消防署 職員 : 安全管理②（第1回、第2回）
 中峰 亜希子 氏（高知県立青少年センター）：青少年教育施設の現状と運営（第1回）
 瀬沼 健 氏（高知県キャンプ協会） : ボランティア活動の技術①②（第2回）
 青少年教育（第2回）

室戸青少年自然の家職員

2. 活動の様子

第1回 (10/31, 11/1)



青少年教育施設の現状と運営



安全管理①



安全管理①



安全管理②



青少年教育におけるボランティア活動



朝のつどい（特別実施）



ボランティア活動の技術



ボランティア活動の技術



ボランティア活動の意義

当施設で養成するボランティアの特色として、高知県内の県立社会教育施設でも同様に活動の機会を得ることが出来るため、「青少年教育施設の現状と運営」では、高知県立青少年センターの中峰亜希子氏にお越しいただき、公立施設の活動について紹介していただいた。「安全管理」では室戸市消防本日室戸消防署の職員から救命救急の講習を受けた。また、翌日実施する野外炊事を題材に、KYT（危険予知トレーニング）を行った。新型コロナウイルス感染防止対策のため、現在は朝夕のつどいを実施していないが、講座の一環として特別に実施し、つどいの意義や重要性について学ぶとともに、実地体験を行った。「ボランティア活動の技術」では野外炊事の演習を行った。当施設の野外炊事では、薪割りの機会がないが、広く自然体験活動の技術を身に付けるため薪割りを演習内容として組み入れた。

第2回 (11/28, 11/29)



青少年教育



青少年教育



ボランティア活動の技術



ボランティア活動の技術



ボランティア活動の技術



全体集合写真

第2回目は瀬沼 健 氏に「青少年教育」の講義、「ボランティア活動の技術」の演習を担当していただいた。「ボランティア活動の技術」ではキャンプファイヤーとレクリエーションゲームを題材に演習を行った。キャンプファイヤーでは、基本的な進行の構成や役割分担、効果的な薪の組み方やトーチの安全な取り扱い方について実践的に学ぶことができた。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・今後、ボランティア活動を行っていく中で重要な部分を学ぶことができ、大変だけれどやりがいのあるものだと感じた。
- ・1泊2日の短い時間でしたが、とても深い体験・経験を積むことができました。自分の目線ではなく、常に相手（子供）の目線で考えること、1秒でも早く危険や変化に気づくことの大切さをしっかり学びました。
- ・もともとそれほどボランティアに興味があるわけではなかったが、今回の講座でとても興味を持つことができたので積極的に事業に参加したいと思った。
- ・自分が主体的に行動することは責任も同時に発生するので、その辺を意識していきたいと思います。

○ 事業の成果

- ・法人ボランティア養成カリキュラムの大枠に則り、ボランティア育成ビジョンによる位置付けに基づいて講座内容をアレンジした。施設としてボランティアに伝えるべき内容の整理や、講義の流れがスムーズに進めることができた。
- ・参加者同士の交流時間を多めにとる試みを行ったが、仲間意識が生まれ、ボランティア登録した

後に、事業に参加しやすい雰囲気醸成することができた。

○ 事業の課題

- ・コロナ禍のため、10月以降の実施となったが、やはり例年に比べて参加者が減少している。また、養成したボランティアが活動できる場面も制限されている。各大学の課外活動ガイドラインを遵守した上で、今回養成した新ボランティアリーダーに活動の場を提供できるよう計画的な運営を行う必要がある。
- ・今後、年度内に養成講座を追加開催することも視野に入れ、引き続きボランティアリーダーの確保に努めていきたい。

イングリッシュキャンプ

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

外国語を用いた体験活動を通して、異文化・言語に体験的にふれあい、外国語について学ぶ意欲を高めるとともに、外国人とコミュニケーションを図る素養を育成する。

○ 実施期間

①令和2年11月 7日（土）～ 8日（日） 1泊2日

②令和2年11月14日（土）～15日（日） 1泊2日

○ 対象者・参加者数

①小学3・4年生 20名

②小学3・4年生 19名

○ 指導者等

国立室戸青少年自然の家職員2名

高知県在住の外国語指導助手及び国際交流員

①アメリカ2名、イギリス2名、オーストラリア1名

②アメリカ2名、オーストラリア1名、シンガポール1名、フィリピン1名

○ 活動プログラム

	11月7日（土）・14日（土）		11月8日（日）・15日（日）
9:30	高知方面迎え出発	6:00	起床
10:00	徳島方面迎え出発	7:45	朝食
12:00	自然の家到着	9:00	ミッションゲーム
12:15	昼食		工作活動
13:45	開講式・入所オリエンテーション	12:00	昼食
14:00	自己紹介	13:15	閉講式
	フィールドフォトビンゴ	13:30	自然の家発
17:15	夕食・自由時間	15:30	徳島方面最終下車
18:30	キャンプファイア	16:30	高知方面最終下車
	※雨天時：キャンドルファイア		
	・外国人講師と一緒に歌を歌ったり、ダンスを踊ったりする。		
20:00	入浴		
22:00	就寝		

2. 活動の様子

< 1日目 >

今年度の「イングリッシュキャンプ」では、第1回・第2回の定員をそれぞれ20名とし、高知・徳島方面の小学3年生から4年生を対象に募集を行った。また、各回に高知県在住の外国語指導助手及び国際交流員の方を講師として5名ずつ招き、イングリッシュキャンプの活動を行った。

開講式後は、4つのグループに分かれて、アイスブレイクの活動を行った。まず初めに、外国人講師から名前や出身国、好きな食べ物について英語で自己紹介を行った。子ども達は、外国人講師が話す英語を一生懸命聞き、理解しようとしていた。また、外国人講師の英語を参考にして、自分なりに自己紹介をしようとする姿が見られた。その後、名前や好きな食べ物を英語で記載したカードを作成し、グループ内で交換した。交換する際には、英語を交えながらコミュニケーションを取ることで、楽しみながら学習することができた。

休憩後は、グループに分かれてフィールドフォトビンゴの活動を行った。活動中は、知っている英語を使ったり、身振り手振りを使ったりすることで、何とか外国人講師とコミュニケーションを取ろうとする姿が多く見られた。

夜間の活動では、第1回は雨天のためキャンドルファイア、第2回は晴天のためキャンプファイアを行った。外国人講師が準備したレクリエーションやダンスを体験する中で、楽しみながら英語に慣れ親しむことができ、自ら進んでたくさんの人と関わることができていた。



< 2日目 >

2日目は、最後の活動として、ミッションゲームと流木クラフトを行った。ミッションゲームでは、4つのグループに分かれ、外国人講師と自然の家の施設を回り、6つのミッションに挑んだ。

今年度は、ソーシャルディスタンス確保のため、直接的な触れ合いのないミッションを作成した。外国人講師やグループの仲間と協力してミッションに挑む中で、積極的に英語を用いてコミュニケーションを取ったり、ミッション達成を共に喜び合ったりする姿が見られた。ミッションゲーム終了後は、流木クラフトの活動を行った。活動中は、子ども達から外国人講師へ抵抗なく話しか

けたり、クラフトのつくり方を説明したりする姿が見られた。

2日間の活動を通して、体験的に英語を学び、自ら進んで外国人講師と関わろうとする態度を身に付けることができた。



3. 事業の成果と課題

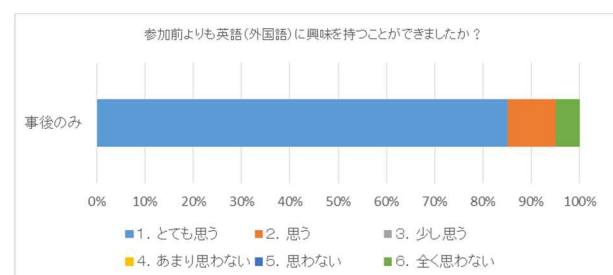
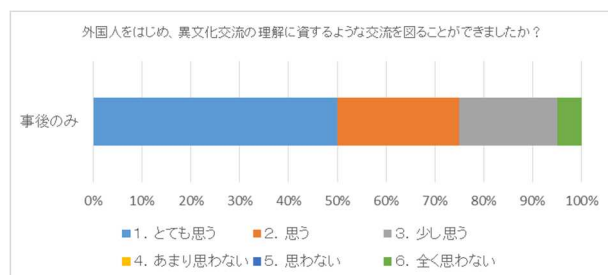
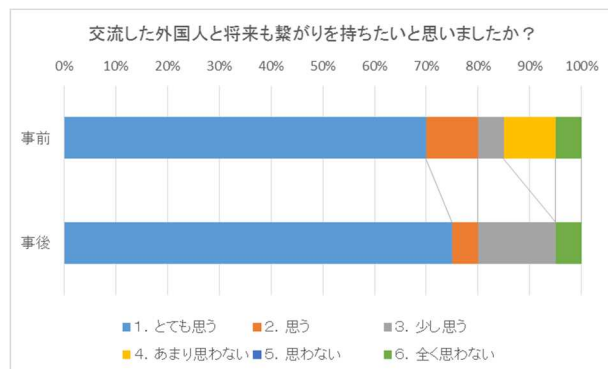
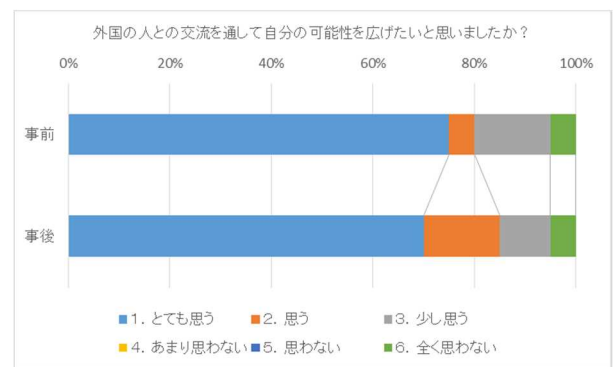
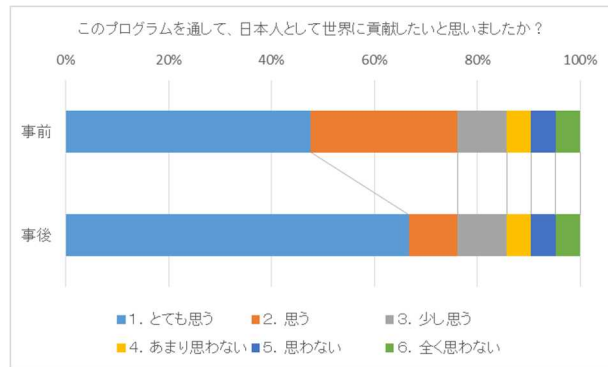
○ 参加者の感想

- ・ 知らなかった単語や英語で、自分の好きな食べ物を言えたのがうれしかったです。
- ・ キャンプファイアのダンスやレクリエーションが面白かったです。またやりたいです。
- ・ 外国の先生と英語で自分のことについて話したり、どんな気持ちかを話したりしたのが楽しかったです。
- ・ 外国人の人たちと交流することがあまりないので、イングリッシュキャンプに来てよかったです。
- ・ フィールドフォトビンゴの活動がとても楽しかったです。外国人の先生と自然に話しながら交流することができてよかったです。また、この事業に参加したいと思いました。これからこのようなイベントが増えるととてもうれしいです。
- ・ 参加する前よりも、英語の発音や言い方がうくなりました。また、来年も来てみたいです。そして、どんどん英語を学んで、いろんな国に行って話してみたいです。

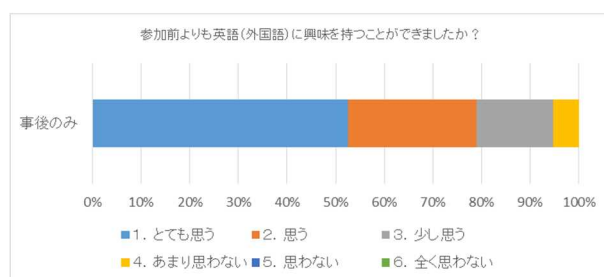
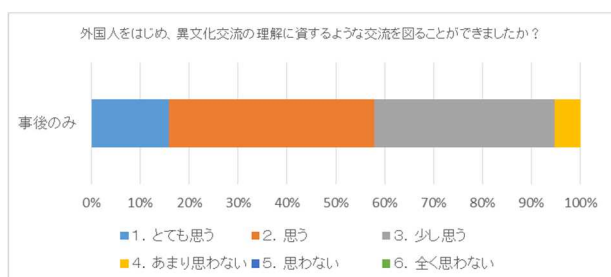
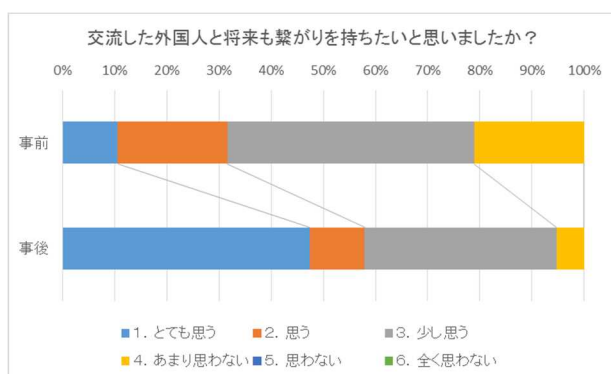
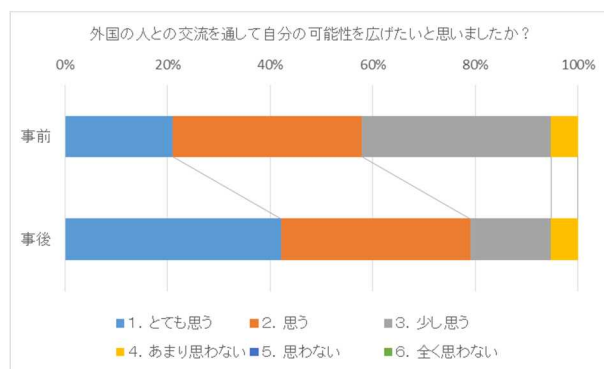
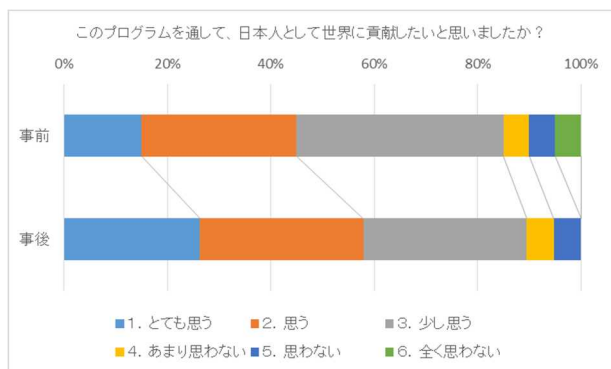
○ 事業の成果

- ・ フィールドフォトビンゴやミッションゲーム、キャンプファイアといった活動を通して、積極的に外国人講師と関わり、自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができた。
- ・ 各グループに外国人講師を1名ずつ配置することで、英語に触れる機会を通常よりも増やし、充実した活動内容にすることができた。
- ・ 活動中は、十分に距離を取り、接触の伴わないレクリエーションやゲームを行うことで、新型コロナウイルス感染拡大のリスクを軽減することができた。

<第1回 イングリッシュキャンプ>



<第2回 イングリッシュキャンプ>



○ 事業の課題

- ・外国語指導助手や国際交流員を講師として招く場合、事前に十分な打ち合わせの時間を確保することが難しいと感じた。そのため、以前と同様に海外の外国人ボランティアを2週間程度受け入れることで、対応できるようにしたい。
- ・新型コロナウイルスの状況に応じて、感染防止対策を行い、リスクを軽減していく必要がある。また、レクリエーションやゲームについても大声を出さず、接触の伴わない活動を中心に計画していく必要がある。

アート夢プロジェクト 親子で芸術鑑賞

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

劇団風の子九州による「このゆびと～まれ！」の観劇を通して、新型コロナウイルス感染症の影響によって子供たちの心に生じた様々なストレスの軽減を図り、明日への活力を養う事業として実施する。

○ 実施期間

令和2年11月23日（月） 日帰り

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

30名／150名

○ 活動プログラム

13：30	開場
14：00～14：10	開会行事
14：10～14：20	ワークショップ
14：25～15：45	公演「このゆびと～まれ！」
15：45～16：00	閉会行事
16：10	解散

2. 活動の様子

室戸市内の小学生及びその保護者を対象とし、劇団風の子九州による演目「このゆびと～まれ！」の公演を日帰り事業として実施した。

最初に行ったワークショップでは、劇団員の指導のもと、新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえ、大きな声を出したり、隣の人と触れ合ったりすることがない手遊びを用いた簡単なゲームを行った。活動中、劇団員と参加者が一体となり、夢中に手遊びに興じる姿が見られた。

演劇「このゆびと～まれ」では、空想の世界で思いっきり遊ぶ主人公の姿を見ていた参加者から、歓声や笑いが起きたり、登場人物の成長する姿に感動したりする様子が見られた。



3. 事業の成果と課題

○参加者の感想

- ・ おもしろい場面、感動する場面がいろいろあり、とても楽しい気分になりました。(児童)
- ・ 最初、かいぞくが本当にやっているかと思いました。おもしろかったです。(児童)
- ・ はじめて劇をみました。参加してよかったです。見てない人はもったいない。(児童)
- ・ 歌やセリフがすごく大きな声で聞きやすかった。迫力があつた。(児童)
- ・ ヒロとまもるが冒険に出かけ、空想玉を取りに行く場面や最後に全員で歌うところが「いいなあ」と思いまいた。(児童)
- ・ すごくおもしろかったです。友情について勉強になったと思います。ありがとうございました。また、機会があれば参加してみたいと思いました。(保護者)
- ・ 劇をみる機会が室戸ではなかなかないので、貴重な経験ができました。これからも色々催してほしいです。子供も喜んでいました。(保護者)
- ・ とてもいい企画だったので、もっとたくさんの人にも参加してもらえたらよかった。参加できてよかったです。(保護者)
- ・ 近場でこのような催しをもっとあればいいです。(保護者)
- ・ 素晴らしい。楽しかったです。コロナ禍で大変なことばかりですが、今後も活動を頑張ってください。(保護者)
- ・ 子供には少し長く感じたかもしれませんが、最後はとても喜んでいました。なかなか劇をみる機会もないので連れてこれてよかったです。もっともっと友達を誘えば良かったです。ステージの迫力など、家に帰ってもたくさん話がはずみそうです。(保護者)

○事業の成果

- ・ アンケート結果から、参加者30名のうち、27名から満足、3名からやや満足の評価を得ることができたように、参加者の満足度は高かった。
- ・ コロナ禍で活動を自粛する傾向が強まり、ワクワクドキドキする機会が減っているが、観劇の事業を実施することで子供たちに普段体験することがない貴重な時間を提供することができた。

○事業の課題

- ・ コロナ禍の中での実施ということで、地域を限定して募集した結果、定員を大幅に下回る参加者となった。参加者の感想にもあるように室戸市は観劇をする機会がこれまであまりなかったということも分かったので、それを踏まえた広報の仕方を工夫する必要がある
- ・ 地元の小学校からの各事業への申込状況は芳しくなく、募集対象地域を室戸市限定とした場合、今後もこのようなことが予想される。ゆえに、自然の家が催す事業に対する関心を高める地道な取り組みがこれからも必要であるとする。

NEAL コーディネーター養成講習会

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

自然体験活動事業を企画・運営・評価し、事業の安全管理を行うとともに、NEAL リーダーおよびインストラクターを統括し、事業全体をコーディネートする指導者を養成する。

○ 実施期間

令和2年11月23日（月）～令和2年11月27日（金） 4泊5日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

NEAL インストラクター資格を所持している方（もしくは資格申請中の方） （8名／20名程度）

○ 講師

青木 康太郎 氏 （國學院大學人間開発学部 子ども支援学科 准教授）

菊間 彰 氏 （一般社団法人をかしや 代表）

西胤 正弘 氏 （有限会社カヌースクール九州 代表）

井上 桂 氏 （下関市深坂自然の森 所長）

○ 活動プログラム

日程	11月23日(月)	11月24日(火)	11月25日(水)	11月26日(木)	11月27日(金)	日程
7:00						7:00
8:00		7:45～8:25 朝食	7:45～8:25 朝食	7:45～8:25 朝食	7:45～8:25 朝食	8:00
9:00		8:30～12:00 対象者理解① 3.5h (菊間 彰)	8:30～12:30 自然体験活動の安全管理 3h 自然体験活動の指導 1h (西胤 正弘)	9:00～12:00 自然体験活動の企画・運営 3h (井上 桂)	9:00～10:00 NEAL資格登録の手続きについて ふりかえり (松下 泰山)	9:00
10:00					10:00～10:30 認定試験 0.5h (松下 泰山)	10:00
11:00					10:30～ 閉講式・解散	11:00
12:00		12:00～13:30 昼食・休憩	12:30～13:30 昼食・休憩	12:00～13:30 昼食・休憩		12:00
13:00	講習管理者:全体進行(松下 泰山)					13:00
14:00	開講式・ガイダンス 1h 14:00～15:00 (松下 泰山)	13:30～14:30 対象者理解② 1h (菊間 彰)	13:30～15:30 自然体験活動の指導 2h (西胤 正弘)	13:30～16:30 自然体験活動の企画・運営 3h (井上 桂)		14:00
15:00	15:15～18:15 青少年教育における体験活動 1.5h 学校教育における体験活動 1.5h (青木 康太郎)	14:30～17:30 自然体験活動の特質 3h (菊間 彰)	休憩			15:00
16:00			15:45～17:45 自然体験活動の企画・運営 2h (井上 桂)			16:00
17:00				17:00～18:30 入浴 本館浴室を開放します。		17:00
18:00	オリエンテーション 荷物移動・入浴・休憩	17:30～18:30 夕食	18:00～18:45 夕食	18:30～20:30 夕食・成果発表会		18:00
19:00	19:00～20:30 夕食・情報交換会		19:00～20:00 自然体験活動の企画・運営 1h (井上 桂)			19:00
20:00						20:00
21:00						21:00
22:00	消灯	消灯	消灯	消灯		22:00

2. 活動の様子

< 1 日目 >

1 日目は開講式の後、NEAL 制度の仕組み、NEAL コーディネーターの役割についてのガイダンスを行った。ガイダンスの後、講師の青木氏による「青少年教育における体験活動」、「学校教育における体験活動」の講義が行われた。「青少年教育における体験活動」では、青少年教育の定義、現代の子供の体験事情、体験活動がもたらす効果や現代の子供に必要な体験について講義が展開された

「学校教育における体験活動」では、学校教育における体験活動の位置づけ、小学校における集団宿泊活動の現状、学校教育における体験活動の今後の在り方等について学んだ。



< 2 日目 >

菊間氏による「対象者理解」、「自然体験活動の特質」の講義演習であった。対象者、場所、環境に合わせた自然体験活動のコーディネートについて演習形式で理解を深めた。ファシリテーション力の向上を目指した実践的な内容となった。



< 3 日目 >

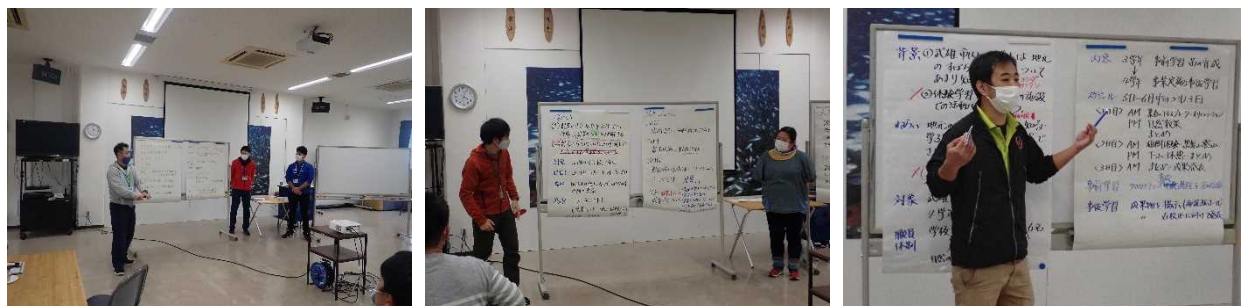
西胤氏による「自然体験活動の安全管理」「自然体験活動の指導」の講義と演習を行った。「自然体験活動の安全管理」ではコーディネーターとして求められる安全管理の体制作りと安全管理に関する関係法規について講義が行われた。演習では架空の事故シナリオを基に、事故を起こした施設職員役と記者役に分かれた模擬記者会見を行った。「自然体験活動の指導」では、事業遂行に必要な「指導体制」について理解するとともに、指導体制の「整備」について学んだ。



夕方からは井上氏による「自然体験活動の企画・運営」が行われた。企画の立て方および留意点、運営に必要な観点、広報計画、評価方法について学んだ。それぞれのポイント毎に自組織で実施してきた取組を基にグループで情報共有と意見交換を行った。

< 4日目 >

引き続き井上氏による「自然体験活動の企画・運営」のグループ演習を行った。企画演習の成果物を発表してNEALコーディネーター講習会のまとめとした。参加者は1日目からの各講義をふりかえりながら、組織体制、広報方法、事前準備、安全管理体制(緊急時の連絡体制含む)、予算、評価方法など、これまでに学んだ視点を網羅して最終成果物を作成した。



< 5日目 >

資格取得後の申請についての説明の後、5日間を通してのふりかえりを行った。参加者からは講習会を通して感じたことや、これから大切にしていきたいこと、自組織に帰って何に取り組んでいきたいかを各々発表した。認定試験を実施した後、閉講となった。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ コロナ禍での講習会の開催、本当にありがとうございました。こまめなアルコール消毒、換気の徹底、3密の回避など、様々ご配慮いただきながらの講習会運営であったため、安心して受講させていただくことができました。送迎や講習内容外のことへもご配慮いただき、大変有難かったです。講師の方々も一流の方ばかりで、学びの深い研修となりました。
- ・ 色々と悩みながらの参加でしたが、学びと出あい学びおおい事業でした。ありがとうございました。
- ・ 実は戸惑いがあったのですが、これからの自分を考える上で参加してすごく良かったです。一歩踏み出せる良い研修となりました。

○ 事業の成果

- ・ アンケートでの事業全体の満足度評価(4段階)は、7名が4の「満足」。1名が3の「やや満足」であった。
- ・ 昨年度から引き続きの講師で運営することができ、スムーズな運営となった。各講師の講義内容は全ての参加者が4「満足」の評価であった。あわせて、授業運営、プログラム共にすべての参

加者が4「満足」の評価であった。

- ・コロナ対策下での実施は手探りの状態であったが、感染防止対策を綿密に準備し事前アナウンス、当日運営において細心の注意を払い、無事に日程を終了することができた。参加者アンケートからも「安心して受講することができた」との声が聞かれた。

○ 事業の課題

- ・参加者が全国から参集する講習会のため、交通手段に応じた開催対応が課題となる。特に今回は、コロナ対策による公共交通機関の減便、休止により、参加者は例年以上に移動に困難を極めたようである。
- ・平成28年度より5年継続して室戸で開催したが、今回が最終年度であった。これまで蓄積したノウハウを次に開催する施設へ効果的に継承していきたい。

のびのび M(メイキング)キャンプ

1. 事業の概要

◎事業の趣旨

自然体験活動や集団宿泊体験を通して、青少年の自主性、協調性、社会性を育む。

◎実施期間

①令和3年2月27日(土)～28日(日) 1泊2日

◎対象者・参加者数

高知県内の小学4～6年生 30名

◎活動プログラム

	1日目		2日目
09:30	送迎バス 出発	7:00	起床
12:00	自然の家 着 はじまりのつどい 昼食(食堂食)	7:45	朝食(食堂食)
13:30	拾って!合わせて!ドキドキパズル	9:30	フォトフレームづくり
17:15	夕食(食堂食)	12:00	昼食(食堂食)
18:30	ファイヤセレモニー	13:00	おわりのつどい
20:00	入浴・就寝準備	13:30	送迎バス 出発
22:00	消灯・就寝	16:00	送迎バス 最終到着

2. 活動の様子

<1日目>

日中は、レクリエーションで仲を深めながら活動班ごとに「拾って!合わせて!ドキドキパズル」を行った。この活動では、様々な色や形のものを探したり、1万円の価値があるモノ、ギザギザしたモノ、いいにおいがするモノ、好きな形といったお題に当てはまる物を考えながら探したりした。最初は「こんなものないよ」と話していた子供たちも自由な発想と考え方でたくさん形や色、お題に当てはまる物を集めていた。夜は、キャンプファイヤーを行い、みんなで楽しく踊ったり、ゲームをしたりして盛り上がった。その後、部屋に戻り、活動班ごとに振り返りを行った。



< 2日目 >

「拾って!合わせて!ドキドキパズル」で集めたものを使ってフォトフレーム作りを行った。活動班の中で、誰がどの収集物を使うか話し合い、どんな作品を作るか考え作成した。2時間という時間があっというまに過ぎるほど、集中して作品を作り上げていた。作品の中には、木の実や葉っぱ等をきれいに並べている人や立体的に作ったりしている人など様々だった。



3. 事業の成果と課題

◎ 事業の成果

・「拾って!合わせて!ドキドキパズル」では、積極的な話し合いが起きるようなお題を設定したことで、子供たちの中で「これいいんじゃない」や「ここ行ってないから行こう」などの発言が生まれ、協力している姿が見られた。フォトフレーム作りでは、机の配置を工夫し話しやすい環境を作り、班ごとにお互いの作品のイメージを共有し、どの収集物を使いたいのか相談する時間を設けた。その結果、困った時に相談したり、作品のいいところを真似したりしながら作成している様子が見られた。また、生活面では、常に子供同士で解決するように伝えたことで、段々と子供同士で話を聞くように注意し合うなど問題を解決するように動けるようになっていった。参加者のアンケートでも「班の人と協力して初めの方はできなかったけれど、だんだんやっていくにつれて協力してできたのでよかったです」や「楽しかったし、最初こんなに友達ができると思っていなくて2日目や1日目の夜から友達みたいな感じになれてうれしかった」と子供自身でも成長を感じたようだった。

・自分たちで考え行動することを意識させる話し方や言葉がけをしたことで、話す人の顔を見て静かに待つことができるようになった。子供のアンケートでも「人の言うことはちゃんと聞き、すぐに行動することが大切だと学んだ」や「みんなで協力しなくてはならないとかんじた」とあり、集団行動をするうえで大切なことを学んでいたようだ。

・「拾って!合わせて!ドキドキパズル」とフォトフレーム作りでは、発想の転換や発見力を要する様々なお題やクラフトを用意したことで、子供の自由な発想と想像力を引き出すことができた。特に「拾って!合わせて!ドキドキパズル」では自然と図形の名前や特徴を話している様子も見られ、算数との関連付けの可能性をみることができた。

◎ 事業の課題

・社会性の向上のために男女混合の班編成をしたが、女子の方が男子より3倍ほど多く、男子が自分の班の中に打ち解けられていないような状況が見られた。

・グループワークや生活面で、お互いの距離が近くなる等の場面が見られ、コロナ対策をさらに徹底する必要がある。

生き物ウォッチング 2020 in 室戸ユネスコ世界ジオパーク

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸にすむ野生動物の調査・観察を行う活動を通して、生き物への興味関心を高め、主体的に学ぶ力、観察する力を育む。

○ 実施期間

令和2年11月7日（土）～令和2年11月8日（日）1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学生、未就学児とその保護者

8家族 22名／定員20名

○ 活動プログラム

11月7日〔土〕 曇りのち雨	11月8日〔日〕 曇りのち晴れ
12:30 室戸世界ジオパークセンター着（所バス）	6:00 起床
13:00 受付	6:40 ネズミトラップの確認・観察・片付け
13:10 オリエンテーション	7:45 朝食
13:25 室戸ジオパークの説明	8:30 清掃・点検
14:55 動物カメラの設置	9:00 動物カメラの回収
16:05 ネズミトラップの設置	10:00 カメラ映像の確認
16:55 配宿・入所オリエンテーション	10:30 生き物のお話
17:45 夕食	11:00 スタッフ挨拶・アンケート記入
18:30 骨格パズル	11:15 終了
20:00 ナイトハイク	11:30 自然の家発（所バス）
20:30 入浴・就寝	

2. 活動の様子

< 1日目 >

室戸世界ジオパークセンターにて行われたオリエンテーションでは、参加者とスタッフが自己紹介と、自分の好きな生き物について紹介した。その後のジオパークの説明では、参加者は室戸の海底の地形についてインストラクターの説明を受け、また3Dマップを用いて学習した。参加者は室戸沖の海底の急激に深くなる地形に驚き、その他にもセンター内の室戸の文化や特産品の展示に興味を引かれていた。

次に、動物の観察のために使用するカメラの説明を聞き、自然の家内の冒険の森にてカメラの設置を行った。参加者たちは谷地森先生の説明をもとに、生き物が通りそうな場所をそれぞれに考えながら、カメラを設置していった。カメラを設置する際、森では小さなカナヘビや30cmほどあるカンタロウなどが見つかり、子どもたちからは生き物が見つかるたび歓声が上がっていた。

その後は草スキー場まで移動し、ネズミトラップを設置した。先生から、「雨天時にはネズミを

捕まえる鳥などの生き物があまり動かなくなるため、捕まえるためにはいい条件です」という言葉もあり、参加者は期待を膨らませながら思い思いの場所に設置していた。

夕食後は雨が降ってきたため、雨天時に実施する予定であったタヌキやアナグマの骨格パズルを行った。参加者たちは見本の標本や先生の説明をもとに、手に取った骨がどこの部分の骨であるかを考察し、家族や友だちと協力し合いながら正しい位置に並べ替えていた。パズル終了後には、参加した子どもたちから、「タヌキの好きな食べ物は？」「タヌキに似た生き物は？」など質問が多数寄せられ、参加者の生き物に関する関心の高まりが感じられた。

その後は小雨の中、ロッジまでナイトハイクを行いながら戻った。雨のため生き物の姿や声などを見聞きすることは出来なかったが、参加者たちは普段は出来ない夜中の散策を楽しんでいるようだった。



< 2日目 >

2日目は早朝より、ネズミトラップの確認を行った。今回は残念ながらトラップにはネズミはかかっておらず、参加者は落胆した様子を見せていた。それでも参加者たちは研修棟の周りで鳥や虫を探しに散策したり、先生が持参した生き物の図鑑を読んだり、それぞれ主体的に生き物について触れ合う意欲を見せていた。

朝食・部屋の片付けを終えた後、今度は動物カメラの回収を行い、映像の確認を行った。家族ごとに設置したカメラの内、並んで歩く2頭のイノシシの姿が映っているものがあり、参加者からは大きな歓声が上がっていた。

その後には、谷地森先生が四国の各地で撮影したクマやシカなどさまざまな生き物の映像が紹介された。映像にはメスと呼ぶために鳴き声を上げるシカの映像もあり、参加した子どもたちは休憩時間にみんなで泣き声を真似していた。

生き物のお話では、四国内で観察された生き物の写真やその種類などが紹介され、参加者たちはネズミなどのよく知られる生き物の種類の多さや、初めて見る種類の特徴的な姿に驚いているようだった。

スタッフの挨拶の後、その日に室戸の海岸で取れた鯨の顎の骨を観察した後、プログラムは終了した。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ 友だちやスタッフと仲良くなってうれしかった。
- ・ お友だちがたくさんできたみたいで、楽しかったようです。
- ・ 動物とふれあって、いろんなことを知りたい。
- ・ 未就児も参加できる企画はとてもありがたかったです。個室にお風呂があったのもすごく助かりました。普段経験体験できないことが、今回沢山親子でできたことは、とても貴重な時間でした。谷地森先生をはじめ、スタッフの方、本当に色々ありがとうございました。

○ 事業の成果

- ・ 参加者の子どもたち同士で自主的に生き物を探しに散策したり、当初は生き物が苦手だった子どもが、カナヘビやカニなどを捕まえる他の子どもたちと遊んだりするうちに、最終日には積極的に生き物に触れるようになるなど、子どもたちが主体的に活動し、成長していく姿が多く見られた。
- ・ 雨天にののために急遽実施した骨格パズルであったが、家族同士、友だち同士で話し合ったり、講師やスタッフに積極的に質問をしたりなど、他者とのコミュニケーションを取り、かつ生き物の生態について学習するいい機会となった。

○ 事業の課題

- ・ 動物カメラ・トラップ共に、設置する際にどんな生き物が見つかる可能性があるか、あらかじめ写真付きのリスト等を作成して参加者に提示すれば、参加者の意欲が増し、イメージが明確になると思われる。
- ・ 未就学児の参加者のいる家族が、途中でぐずってしまったり眠ってしまうなどで、親子共に途中で抜ける場面があった。未就学児の参加者が増えればこのような事態はさらに多くなると思われるので、ジオパークセンターのスタッフとも協議し、参加者が決定した時点でそれに合わせてスタッフの人数や対応などを具体的に調整できるようにしたい。



室戸においでよ！家族 day!!

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

高知県東部地域及び徳島県南部地域の豊かな自然・歴史・文化を体験する活動、宿泊体験、世代間交流などを通して、青少年のチャレンジ精神、創造性、社会性を育む。

○ 実施期間

令和2年10月24日（土）～10月25日（日）

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

高知県及び徳島県の小学生以下の子どもとその保護者 参加者 19 組 59 人/定員 20 組 60 人程度

○ 活動プログラム

時刻	1 日目（土曜日）	時刻	2 日目（日曜日）
13：25	送迎バス出発（徳島方面）	6：30	起床
14：00	送迎バス出発（高知方面）	7：30	朝食
16：30	自然の家着	8：30	清掃
16：40	入所オリエンテーション	8：45	退所点検
17：30	夕食	9：30	活動（施設開放）開始
19：00	遊びリンピック（参加自由）	12：00	昼食
20：00	入浴	14：00	活動（施設開放）終了
21：30	就寝	14：30	送迎バス出発
		17：30	最終解散

2. 活動の様子

< 1 日目 >

参加者は入所オリエンテーション及び夕食後、体育館で遊びリンピックで様々なゲームを家族で楽しみながら、好記録を目指して挑戦した。たくさんの家族の参加があり、盛況のうちに終了した。



< 2 日目 >

2 日目の施設開放では、所内に設けられたブースにてアクティビティを参加者に自由に楽しんでもらった。普段国立室戸青少年自然の家で提供しているアクティビティや、新たに導入したタッチプールカーを使用した魚との触れ合い、他の施設の出張ブースを楽しんでもらった。併せて各ブースでスタンプラリーを実施することで各参加者にたくさんのブースを回ってもらった。また、気に入ったブースで繰り返し体験をする参加者も見られた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・とても楽しかったし、友だちがふえたのでうれしいです。
- ・遊びリンピックが楽しかった。
- ・コロナで宿泊訓練がなくなったので、自然がたくさんあるここに来て良かったです。シーツをセットしたり片づけをしたり2段ベットに寝たり家でできないことがたくさんできました。
- ・楽しい企画をありがとうございます。子どもたちも大喜びでした。
- ・時間にゆとりのあるカリキュラムで良かったです。

○ 事業の成果

- ・コロナ禍の中、事前申込で定員を設定しての開催とすることで安心して参加してもらうことができた。
- ・標記事業の中に遊びリンピックを組み合わせたことで体験活動推進の啓発ができた。

○ 事業の課題

- ・各プログラムの詳細や、役割の分担について事前の確定や連絡がうまくできないところがあったため、余裕を持ってプログラムの確定や周知を行う必要があると考えられる。

ジュニアクラブ（生き物観察とピザ作り編）

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

親子を対象に、自然体験活動等を通して家族間のふれあいを深める。

○ 実施期間

令和2年9月19日（土）～20日（日） 1泊2日

○ 対象者・参加者数（参加人数/定員）

対象者：小学生以下の児童・園児とその保護者（10組32名／10組30名程度）

○ 活動プログラム

1日目（土曜日）		2日目（日曜日）	
14:00	室戸自然の家 集合 はじまりのつどい		起床・室内清掃
14:30	土佐あかうしのふれあい体験(豊田畜産) おもしろ自転車に挑戦	7:30	朝食（食堂食）
16:00	ピザ作りに挑戦（夕食野外炊事）	9:00	バス移動
19:30	入浴 消灯・就寝	9:30	むろと廃校水族館で海の生き物観察
		11:00	室戸ドルフィンセンターでイルカの観察
		12:30	自然の家着、昼食(食堂食)
		13:30	おわりのつどい 解散

2. 活動の様子

<1日目>

当施設ミニサイクリング場と敷地を接する豊田畜産の協力を得て、土佐あかうしのふれあい体験を行った。牛への疫病対策として、活動前にはしっかりと手指および靴の消毒を行ったうえで、餌やりやブラッシングをし、聴診器を用いて牛の体内の音を聞いた。参加者は心臓の音や胃が蠕動する音を興味深く聴き取っていた。並行しておもしろ自転車の乗車体験を行った。様々な形態の自転車を楽しそうに漕ぐ姿が見られた。

夕食を兼ねて、ピザ作りに挑戦した。粉を捏ねて生地を作り、短時間発酵させたのち、思い思いの具材を載せた。自分たちだけのオリジナルピザを焼き上げておいしそうに頬張っていた。



<2日目>

2日目は、むろと廃校水族館で海の生き物ふれあい体験をおこなった。水族館のご厚意で参加者の見学時間に合わせて飼育員の餌やりの場を設けていただき、様々な魚類がエサをついばむ貴重な場面を観察することができた。

室戸ドルフィンセンターでは、イルカの観察を行った。参加者は、日常では間近で見ることのないイルカにとっても喜んでいた。イルカのパフォーマンス練習を見学する場面では、イルカが高く飛び跳

ねる姿や高速で泳ぐ様子に驚き、歓声をあげていた。イルカを間近で観察し、イルカの生態を学ぶことができる貴重な体験となった。

3. 事業の成果と課題

○ 事業の成果

本年6月以降から開催のタイミングを計っていたが、募集チラシを各小学校を通じて配布する形式をとることから、学校の協力を得られる社会状況が整う時期まで様子を伺い、今回の実施につなげることができた。家族10組の募集に対し131組の応募があり、旺盛なニーズに応えきれない結果となった。応募数が圧倒的に伸びた要因として考えられるものとして、①明快な事業内容が応募者に訴求した、②募集対象が幼児・小学生と幅広く、家族単位で参加しやすい事業であった、③むろと廃校水族館、室戸ドルフィンセンターの高い知名度、④県内でも事例の少ない、土佐あかうしのふれあい体験が関心を呼んだ、⑤外出を控える傾向の中で、県内・近場で実施される「安心感のある」事業であった、等があげられる。

○ 事業の課題

新型コロナウイルス感染症対策で募集定員に制限を掛けざるを得ないため、応募いただいた多くの方にお断りをしなければならない状況であった。ガイドラインを遵守した上で、より多くの方に体験活動の機会を提供できることが望ましいが、開催数の追加などを含めた事業の拡大は物理的に難しい現状にある。需要に応えるための解決策を模索しているところである。

ジュニアクラブ（満天の星空編）

1. 事業の概要

◎事業の趣旨

自然体験活動や集団宿泊体験を通して、青少年の自主性、協調性、社会性を育む。

◎実施期間

①令和3年1月23日（土）～24日（日） 1泊2日

◎対象者・参加者数

高知県内の小学4～6年生 12名

◎活動プログラム

1日目（土曜日）	2日目（日曜日）
14:00 送迎バス 出発	7:30 起床・室内清掃
17:00 夕食（ホテル明星）	8:20 朝食（パン弁当）
18:45 はじまりのつどい	9:00 天体望遠鏡を作ろう
19:00 myプラネタリウムを作ろう	12:00 昼食（弁当）
22:00 入浴・就寝準備	13:15 おわりのつどい
23:00 消灯・就寝	13:30 送迎バス 出発

2. 活動の様子

<1日目>

終日、雨となったためプログラム内容を入れ替えて実施した。myプラネタリウム作りを一日目に行った。星空観察ができない代替として、各自が作成したプラネタリウムで夜を過ごしてもらう趣向とした。市販キットを用いたが、複雑な組み立て手順を追いながらじっくりと作成していた。



<2日目>

2日目も雨天となり早朝の星空観察・日の出観察を中止して遅めの起床とした。前日の内容と振り替え、望遠鏡作りを行った。参加者は望遠鏡の仕組みを理解しながらで工作に取り組んだ。



3. 事業の成果と課題

◎ 事業の成果

高知県の定める新型コロナウイルス感染症対策の目安が12月上旬から「特別警戒」の対応となったため従前行っていた県下小学校を通じた事業チラシの配布を行わず、令和2年度の事業申込者へのDM(送付数130通)で参加者募集を行った。参加者の宿泊はロッジ棟として一部屋を一人ずつ使用するために募集定員を12名までとした。募集対象を絞り短期間の募集であったが、定員を上回る応募があり、最大数での受け入れを行って事業を実施した。

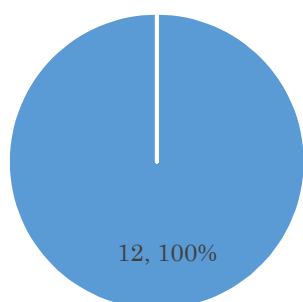
2日間とも悪天で、予定していた観察活動はすべて実施できなかったが、天体望遠鏡、プラネタリウムの作成を行った。自分の手で組み立てていくことで、望遠鏡の仕組みを理解したり、星座についての知識を得ることができ、天文への興味・関心を高めることができた。参加者の感想では「雨がふっていたけどプラネタリウムや天体ぼうえんきょうをつくるのがたのしかったです。」「今までになかった体験ができてよかった。 分からないことをおしえてくれてよかった。 星は見えなかったけど楽しかった。」との声が聞かれた。

◎ 事業の課題

天候に左右される内容のため、綿密な荒天時プランの準備が不可欠となる。今回は終日の雨となり、完全な荒天プランでの実施となった。天体望遠鏡とプラネタリウムのキットを組み立てる工作教室のような内容となったが、作業の過程で星や天文に関わる挿話を入れるなどして、作業のみに終始しないよう工夫を凝らした。また、参加対象者である小学校高学年でもスムーズに組み立てられるよう事前試作も行い、制作手順の変更や工作道具の追加などを行ったが、実際に作業をして判明した点もあり、次回実施のための改善点を得ることができた。

○アンケート集計 n=12 回収率 100%

事業全体をとおして

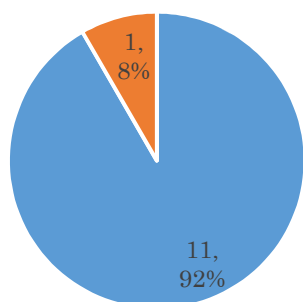


■ 4 よかった ■ 3 まあよかった
■ 2 ややよくない ■ 1 よくない

【自由記述】

- 4 全部楽しかった(小5女)
- 4 友達もできたからよかった(男小4)
- 4 予定がしっかりしていた(小6男)

プログラムの内容について

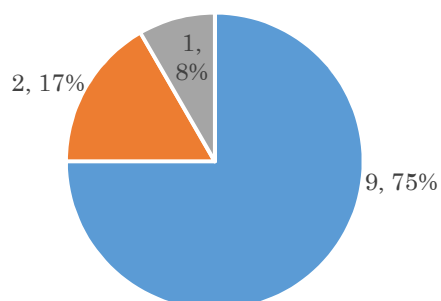


■ 4 よかった ■ 3 まあよかった
■ 2 ややよくない ■ 1 よくない

【自由記述】

- 4 べんきょうになったしプラネタリウムのしくみみたいなのをしれた。(小6女)
- 4 プラネタリウムの作り方の教え方がじょうずだったから。(小4男)
- 3 コロナ過だから、しょうがないけど1部屋に2人でねたかった。(小5女)

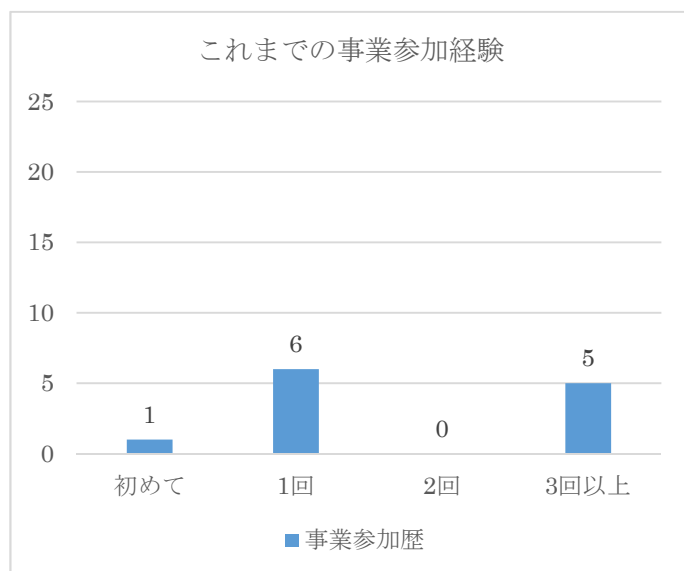
職員の対応について



■ 4 よかった ■ 3 まあよかった
■ 2 ややよくない ■ 1 よくない

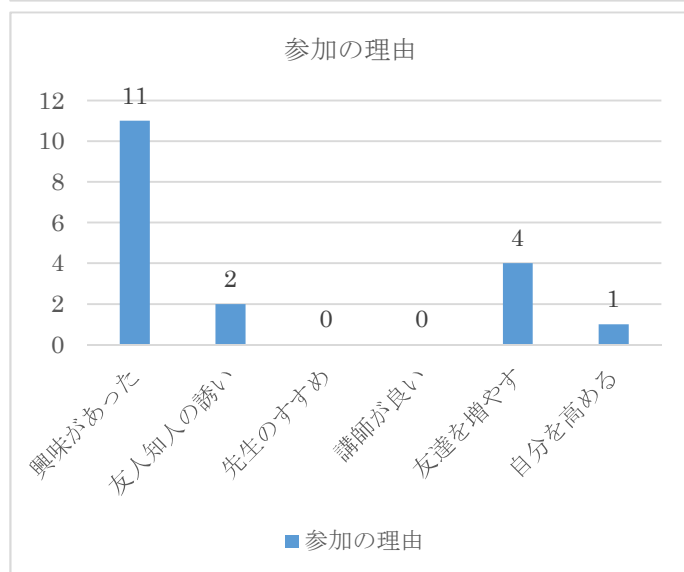
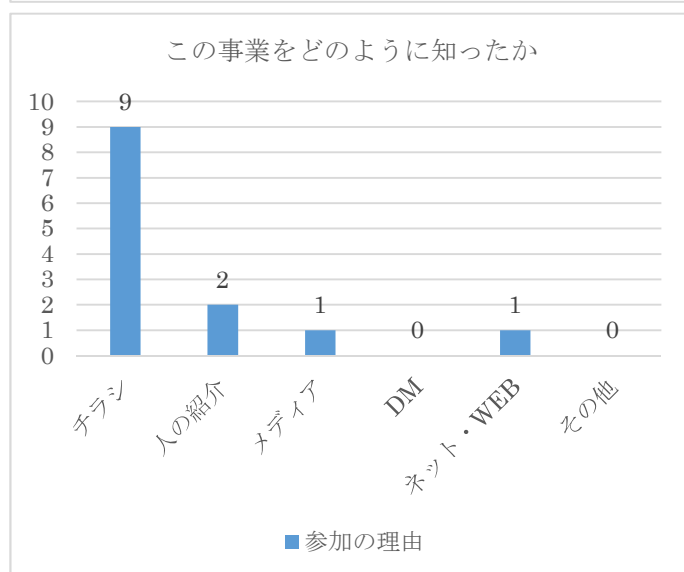
【自由記述】

- 4 たくさんの知識を教えてもらえて良かった(小6女)
- 4 分かりやすく教えてくれた。(小6男)
- 3 少しきびしかった(いいかたがきつかったひとがいる)(小5男)
- 3 少し上から目線の人があった。(小4女)
- 2 ちょっとこわい人がいたから2にしたよ(小5男)



【3回以上】

- ・ 3回 2人
- ・ 5回 1人
- ・ 9～10回 1人
- ・ たくさん 1人



【ご意見、お気づきの点】

・すごく楽しかったし、友達もできてとてもうれしかった。ヨッシーたちもやさしくせっしてくれた。
(小4女)

・星の豆知識がとてもおもしろかったです。自分の知らないことがたくさんでてきたので友達にも、じまんでからこれからも続けてほしいです。物作りのときでもみんな笑顔で接してくれたので、とても上手くできました。コロナが明けたら友達と一緒にまた来たいです。(小6女)

・ロッジとうでねたときはすごくこわかった。 たくさんの友だちと仲良くすることができた。 23日の夕食のハンバーグがおいしかった。 最近、こういうき画で申し込んだけどずっと当たらなかったの、今回さんかできてよかった。 友だちといろいろなことができて楽しい2日間になった。 友だちと協力して、すてきなプラネタリウムと天体望遠鏡ができた。 プラネタリウムや天体望遠鏡を作った時に自然の家の人やさしく丁寧におしえてくれたので、安心してつくることができた。(小5女)

・雨がふっていたけどプラネタリウムや天体ぼうえんきょうをつくるのがたのしかったです。(小4男)

・たのしかったです、べんきょうになって、人数はすくなかったけど、ともだちをつくったりともだちとこうさくしたりして、すごくおもしろかった。(小6女)

ジュニアクラブ（満天の星空編）

1. 事業の概要

◎事業の趣旨

自然体験活動や集団宿泊体験を通して、青少年の自主性、協調性、社会性を育む。

◎実施期間

①令和3年1月30日（土）～31日（日） 1泊2日

◎対象者・参加者数

高知県内の小学4～6年生 11名

◎活動プログラム

1日目（土曜日）	2日目（日曜日）
14:00 送迎バス 出発	6:00 起床・室内清掃
17:00 夕食（ホテル明星）	6:15 早朝の星空を観察しよう 日の出を見よう
18:30 はじまりのつどい	8:00 朝食（パン弁当）
19:00 天体望遠鏡を作ろう	9:00 my プラネタリウムを作ろう
21:00 天体望遠鏡で星空を見よう	12:00 昼食（弁当）
22:00 入浴・就寝準備	13:15 おわりのつどい
23:00 消灯・就寝	13:30 送迎バス 出発

2. 活動の様子

<1日目>

倍率30倍の天体望遠鏡キットを組み立てた後、正面広場で星空観察を行った。施設所有の望遠鏡も据え付け、星空を観察した。雲の無い絶好の観測日和で、冷たく澄んだ空気の中、オリオン座や冬の大三角形を見ることができた。



<2日目>



予定通りの時間に起床し展望棟屋上へ集合した。あいにく水平線上に低い雲が垂れ込め、海から昇

る朝日は望めなかったが、雲の上端から徐々に姿を現した太陽を見ることができた。昨夜東の空で観察した月が西の空に移動していることに気づき、参加者はあらためて地球の自転を感じていた。朝食後はプラネタリウムの作成を行った。星座が印刷された厚紙を画鋏で一つずつ穴をあけていく地道な作業であったが、昨夜見た星空を思い出しながら作業を進めた。

3. 事業の成果と課題

◎ 事業の成果

同一の内容を2週続けて実施した。両回とも定員を上回る応募があった。1回目は天候に恵まれなかったが、今回は所定の内容で実施することができた。前回のキット工作での問題点も工作手順の見直しや物品の追加購入でスムーズに改善することができた。参加者からは「1つ1つがたのしく、おもしろい中身だった。」「月のもようや見たことのない星をみたのはいんしょうにのこりました。」との感想が得られた。

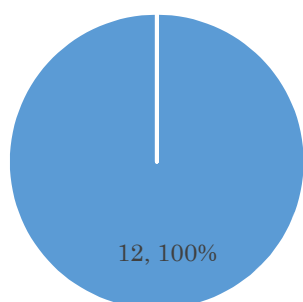
◎ 事業の課題

当施設が星空観察に適した立地であることを活用した事業として実施したが、天候に左右されるのは致し方ないことである。幸いにして今回は所定の内容で実施ができたが、全く屋外活動ができない場合でも、事業趣旨を達成できる荒天プログラムの工夫が重要となる。今回は天文に関するクラフト作成で目的を果たすことができたと考える。

今回の事業では試行的に所内食堂を利用しない形をとり、初日夕食は所外（ホテルのレストラン利用）にて、2日目はパン類や弁当で対応した。参加者からの不評はなかったが、所外で温かい食事を提供するには食費の割合が過重となり、パンや弁当だけでは味気ないものとなる。所内食堂の受容性を改めて認識する結果となった。

○アンケート集計 n=12 回収率 100%

事業全体をとおして

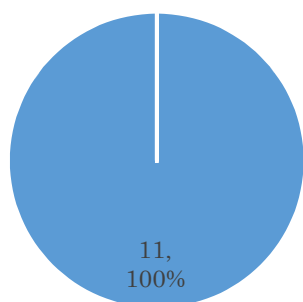


■ 4 よかった ■ 3 まあよかった
■ 2 ややよくない ■ 1 よくない

【自由記述】

- 4 天体ぼうえんきょうを作って自分がつくったのでかん
さつしたのはとてもうれしくて楽しかった! (小5女)
- 4 友達ができてよかった。(小6女)

プログラムの内容について

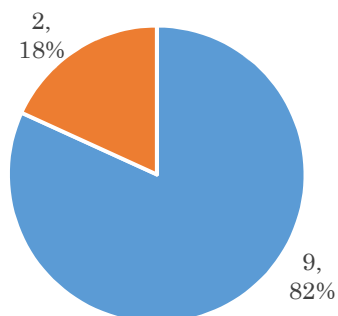


■ 4 よかった ■ 3 まあよかった
■ 2 ややよくない ■ 1 よくない

【自由記述】

- 4 1つ1つがたのしく、おもしろい中身だった。(小5女)
- 4 内容がこくてももしろかった。(小6女)
- 4 仲間といっしょにやったことやふだん作れないものを
作ったのはいんしょうに残りました。(小5女)

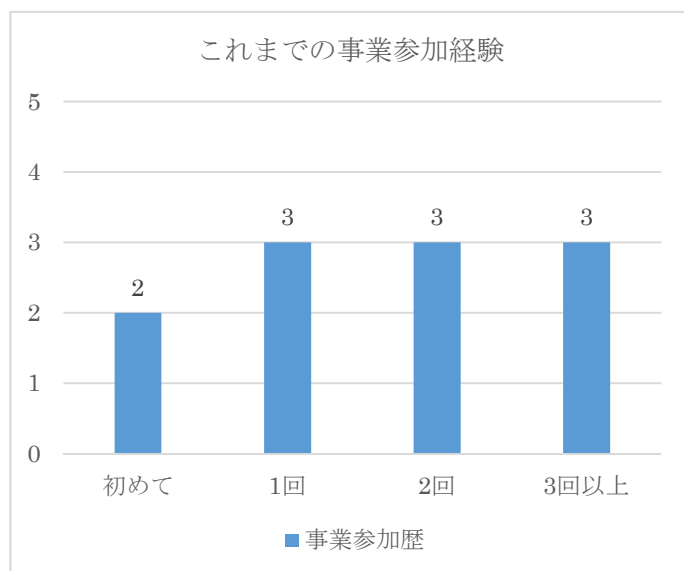
職員の対応について



■ 4 よかった ■ 3 まあよかった
■ 2 ややよくない ■ 1 よくない

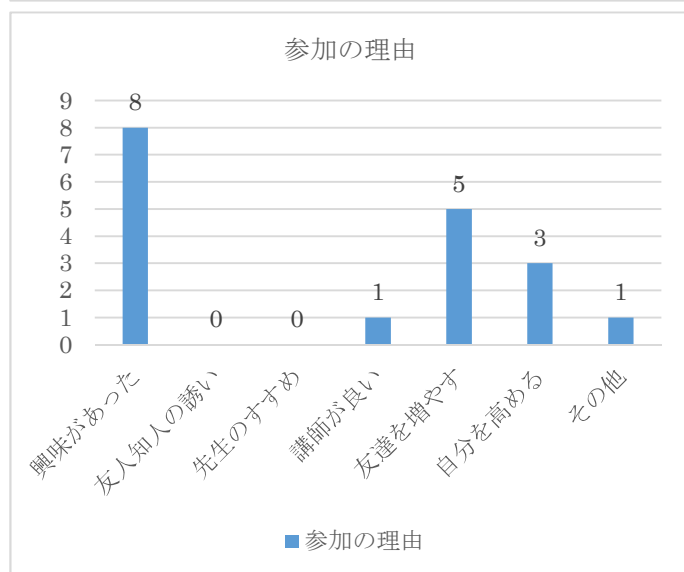
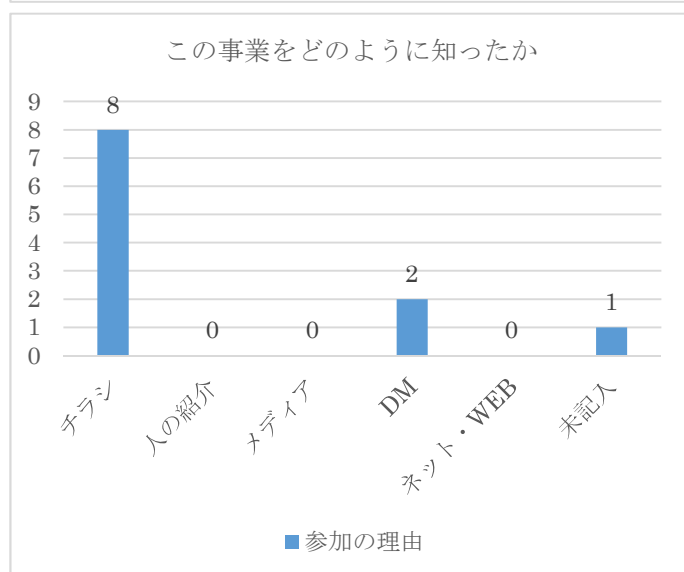
【自由記述】

- 4 何かを作るときこまったらすぐきてくれて作るのを手
伝ってくれたのでたすかりました。(小5女)
- 4 説明が分かりやすかった。(小6男)
- 3 よかったけど、すこしこわかった(小6女)



【3回以上】

- ・2~3回 1人
- ・3回 1人
- ・7回 1人



その他

- ・おかあさんに行っておいでっていわれたから。(小6女)

【ご意見、お気づきの点】

・全体的にもの作りなどが多く、楽しめたので良かった。子供一人でね泊まりするのは結構久々なので楽しかった。夜の星をじっくり見たり、日の出を見るのはめったにないので貴重な体験になった。(小6女)

・はじめて一人ですることがいっぱいあっていいけんになったしとても楽しかったです。また、ちがうキャンプでもいきたいです。ねごちとかもいいしコロナのかんせんをよけるためにはじめてのことができたからよかったし楽しかったです。(小4男)

・一番楽しかったのは天体ぼうえんきょうを作り、星や月をみたことでした。月のもようや見たことのない星をみたのはいんしょうにのこりました。新型コロナウイルスの形をした星やふだん見つけられない物をみることもできました。仲がいい友達もできたし、男子とも仲良くなりました。ぜひ家でも作ったものを使い、月を見たり星をみたりしてみたいです。2日間楽しかったです。(小5女)

くろしおいっしょにあそぼう通信

1. 事業の概要

○『くろしお』いっしょにあそぼう通信

『くろしお』いっしょにあそぼう通信は、高知県東部地域と徳島県南部地域に暮らす人たちが主催する青少年向け体験活動事業を集めた情報誌である。この情報誌の特徴は、様々な団体が主催する事業を1つの情報誌に取りまとめ、参加申込の手続きを事務局がすべて行ったところである。

○実施期間

令和2年10月～令和3年1月

○対象者

高知県東部地域から徳島県南部地域の家庭及び青少年

○実施事業

- ・室戸の蒲鉾屋で職人体験とイルカタッチで1日満喫
- ・ネイチャーゲーム体験教室
(新型コロナウイルス感染拡大による参加者のキャンセルに伴い事業中止)
- ・かみかつ茅葺き学校～餅つきとしめ縄づくり～
(新型コロナウイルス感染拡大に伴い事業中止)
- ・室戸「漁船に乗船していざ深海生物漁業体験」
- ・MUROTObase55×riddim Blue

2. 応募状況

室戸「漁船に乗船していざ深海生物漁業体験」

- | | |
|--------|---------------------------------|
| ① 期 日 | 令和2年12月6日、13日、20日、27日、令和3年1月17日 |
| ② 開催場所 | 佐喜浜港 |
| ③ 対 象 | 小学生以上（ペア参加のみ） |
| ④ 参加人数 | 令和2年12月6日 11人/12人 |
| | 20日 3人/12人 |
| | 27日 2人/12人 |
| | 令和3年1月17日 4人/12人 |

室戸「室戸の蒲鉾屋で職人体験とイルカタッチで1日満喫」

- | | |
|--------|-----------|
| ① 期 日 | 令和2年11月7日 |
| ② 開催場所 | 山本かまぼこ店 |
| ③ 対 象 | 小学生～大人 |
| ④ 参加人数 | 10人/10人 |

室戸「MUROTObase55×riddim Blue」

- ① 期 日 令和2年10月17日
- ② 開催場所 MUROTObase55
- ③ 対 象 どなたでも
- ④ 参加人数 2人/50人

成果と課題

○成果

- ・今年度新たに掲載協力を頂けた団体があった。
- ・チラシの余白部分を使い、掲載団体の募集及び他機関紹介を行うことができた。

○課題

- ・新規掲載協力団体の確保。
- ・参加者の声が反映された広報誌を作成し、より多くの方へ体験活動を普及する必要がある。

管理運営報告

1. 職員の主な研修・講習等

- 「新任職員研修」 令和2年4月1日
(新規採用職員、人事交流職員及びその他の職員対象/3名参加)
 - ・ 所の概況、実施事業及び利用者受入業務の内容説明、実践を重視した基礎的研修
- 「救急救命・AED講習会」 令和2年6月12日実施(16名参加)
 - ・ 室戸市消防署職員による講義及び実践練習
- 「熱中症予防対策講義」 令和2年7月7日実施(16名参加)
 - ・ (株)大塚製薬工場職員による講義
- 「避難・消火訓練」 令和2年10月13日(16名参加)
 - ・ 室戸市消防署職員の立ち合いのもと、火災発生を想定した訓練を実施後、消火器を使っの初期消火の訓練を実施

2. 令和2年度国立室戸青少年自然の家運営協議会

【第1回】

日 時 令和2年7月20日(月)14時~16時
場 所 国立室戸青少年自然の家 研修棟 プレイルーム
出 席 者 植田壯一郎、川村響、木野内敦、坂井智空、清水幸一、仲村貴介、長尾洋行、
(敬称略) 松島弘、三觜美香、若月元樹 各委員 計10名

【第2回】

日 時 令和3年3月15日(月)14時~16時
場 所 国立室戸青少年自然の家 研修棟 プレイルーム
出 席 者 伊藤純、植田壯一郎、川村響、坂井智空、清水幸一、仲村貴介、若月元樹、
(敬称略) 渡邊智子 各委員 計8名

3. 栄典関係

当施設研修指導員の鈿物正悟氏が、昭和56年から今日まで40年間の長期にわたり、海の体験活動としてのスノーケリングの実技指導・助言、豊富な海洋生物の知識を生かしての磯観察・磯遊びにおける指導・助言等、様々な活動を通して青少年の健全育成に尽力され、社会教育の振興に多大な貢献をされた功績により、令和3年2月26日に文部科学大臣から社会教育功労者表彰を受けられた。

鈿物正悟氏 略歴

昭和 56 年 国立室戸少年自然の家ボランティア指導員

平成 13 年 独立行政法人国立少年自然の家国立室戸青少年自然の家ボランティア指導員

平成 18 年 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家指導員

平成 22 年 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家研修指導員

4. 施設整備（主なもの）

○給湯設備等改修工事

経年により、配管部分・制御装置に故障が頻発していた。令和 2 年度国土強靱化予算により既設のボイラー設備を無圧式温水器に新設した。

○宿泊棟エアコン取替

設置後約 30 年を経過しており、利用者が快適に過ごせるように 3 室の取替工事を行った。

○ロッジ給湯器取替

設置後 20 年を経過しており、本年度は E 棟全室及び F 棟 2 室の取替工事を行った。

○海浜活動センター給湯器取替

男子シャワー室用給湯器 1 台が、経年により温度調節ができなくなり取替工事を行った。

○草スキー場防護柵設置

毎年、イノシシにより斜面の土が掘り返され、活動に支障をきたしていた。有害動物（イノシシ等）の侵入を防ぎ、利用者が安心・安全に草スキーを行えるように防護柵を設置した。

○研修棟網戸整備

研修室及び廊下に網戸が設置されていない箇所があり、新型コロナウイルス対策を含めて、換気が十分行えるよう新規に網戸を設置した。

○照明 LED 化

多目的ホール前及びスロープ、浴室棟前の LED 照明改修工事を行った。

○研修棟及び海浜活動センタートイレ改修工事

現在は洋式トイレの普及率が高く、和式トイレでは排便できない利用者が多いため、健康管理の面からも洋式化を行った。

○野外炊事場誘導灯及び外灯修理

野外炊事を安心・安全に行えるように、誘導灯の新規取替及び外灯の修理を行った。

5. 施設設備（主なもの）

○マリン用品の充実

利用者が安心・安全に海の活動を行えるよう、マリンシューズ、ウェットスーツ等のマリン用品を購入した。

○七宝焼電気炉の追加購入

活動の充実のため、七宝焼電気炉 1 台を追加購入した。

広報活動

広報活動としてイベントブースを出展したり、出張指導を行ったりして施設のPRを行った。

日付	内容	場所	人数
5月15日(金)	防災学習	室戸市立佐喜浜小学校	8人
6月12日(金)	幼児の運動プログラム	田野町立田野幼稚園	54人
6月30日(火)	SUP体験	室戸市立佐喜浜小学校	21人
7月14日(火)	幼児の運動プログラム	田野町立田野幼稚園	54人
7月15日(水)	オープニングセレモニー	元保育所	51人
8月4日(火)	幼児の運動プログラム	田野町立田野幼稚園	54人
8月19日(水)	大谷保育所タッチプール車	大谷保育所	30人
8月20日(木)	吉良川公民館タッチプール車	吉良川公民館	30人
9月9日(水)	タッチプール車がやってくる	海陽幼稚園、海南保育所(徳島県)	50人
9月14日(月)	タッチプール車がやってくる	吉良川第一保育所	16人
9月14日(火)	タッチプール車がやってくる	佐喜浜保育所	35人
9月15日(水)	タッチプール車がやってくる	室戸保育所	100人
9月16日(木)	タッチプール車がやってくる	羽根昭和保育所	33人
9月16日(木)	タッチプール車がやってくる	菜生保育所	16人
10月13日(日)	幼児の運動プログラム	田野町立田野幼稚園	54人
10月25日(日)	室戸においでよ!家族 day!!	国立室戸青少年自然の家	59人
11月2日(月)	室戸小学校 学P2年 出前	国立室戸青少年自然の家	74人
11月12日(木)	室戸小学校 学P6年・5学年	室戸市立室戸小学校	80人
11月14日(土)	淡路うずしおフェスティバル 2020	国立淡路青少年交流の家(兵庫県)	666人
11月17日(火)	タッチプール車がやってくる	美波町立由岐小学校出前(徳島県)	16人
11月28日(土) 29日(日)	曾爾自然体験フェスタ	国立曾爾青少年自然の家(奈良県)	90人
1月19日(火)	幼児の運動プログラム	田野町立田野幼稚園	54人
2月9日(火)	幼児の運動プログラム	田野町立田野幼稚園	54人
3月13日(土)	ひがしこうち満喫祭	海の駅とろむ駐車場	413人
			計 24 回
			計 2,112 人



室戸小学校学P6年・5学年 出前



淡路うずしおフェスティバル 2020



淡路うずしおフェスティバル 2020

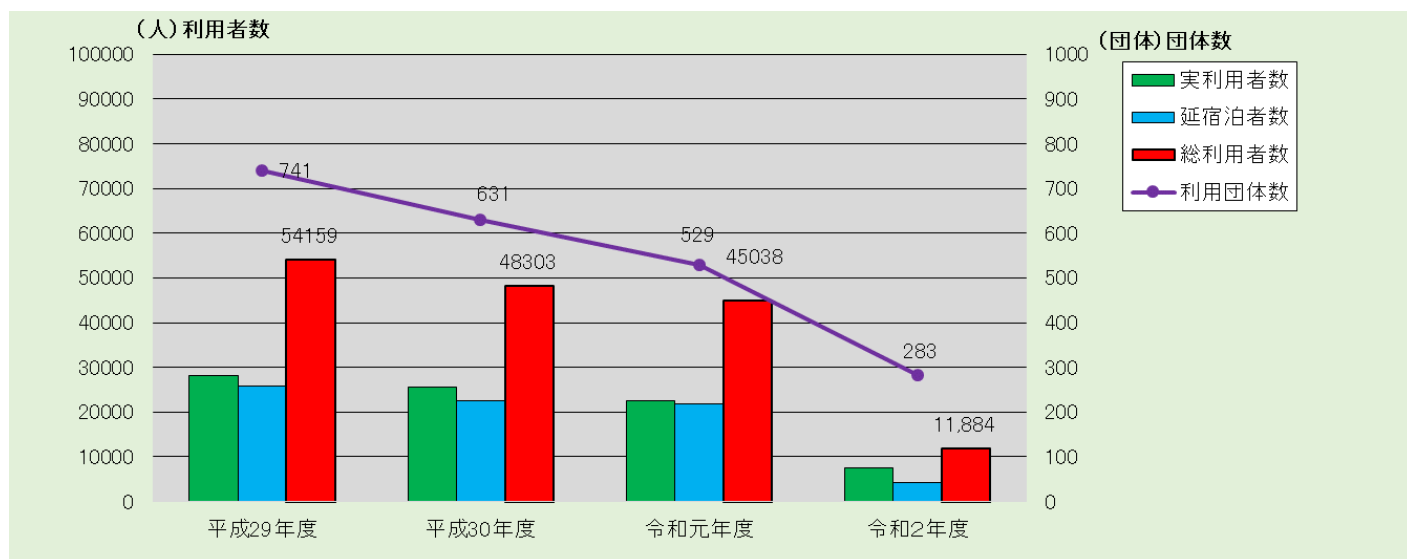
利 用 実 績

【年度別利用状況】

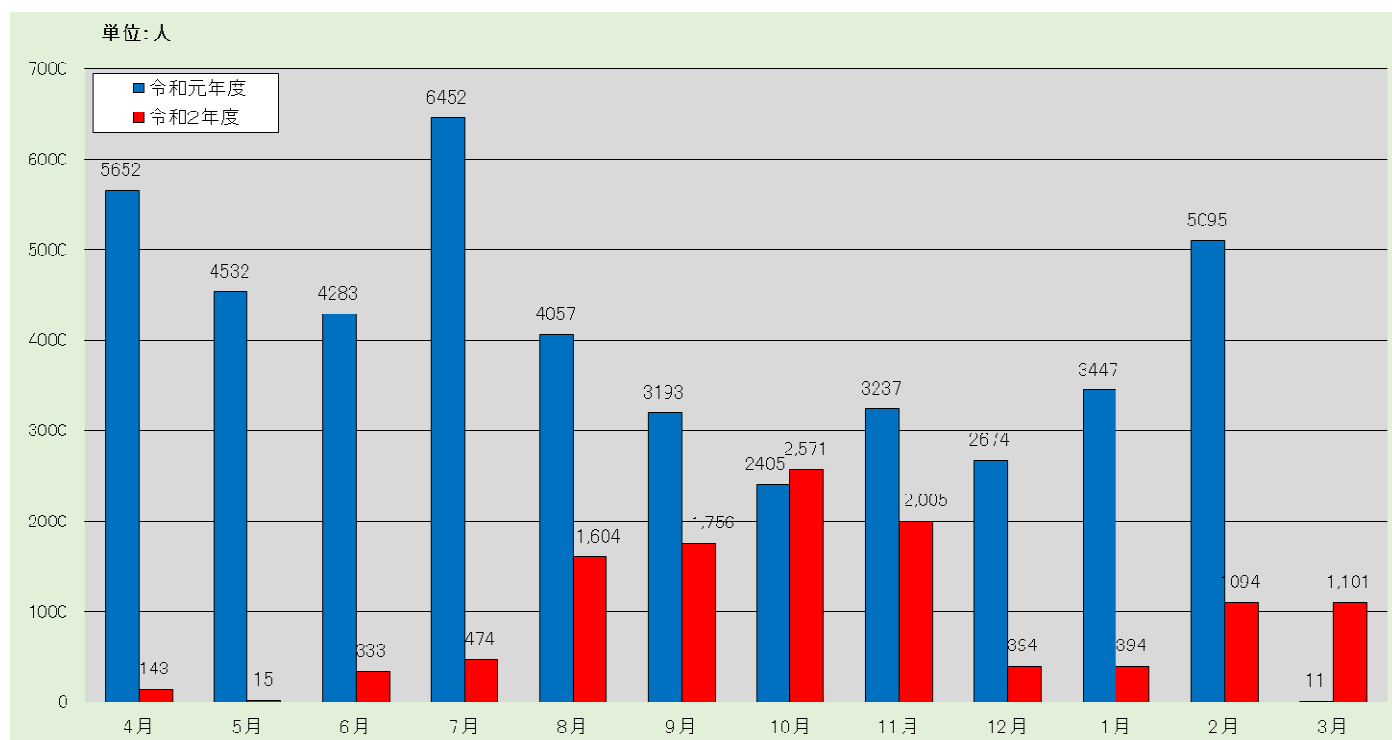
新型コロナウイルス感染症防止のため、下記の期間は受入停止

令和元（2019）年度：令和2年2月27日～3月15日、3月17日～3月24日

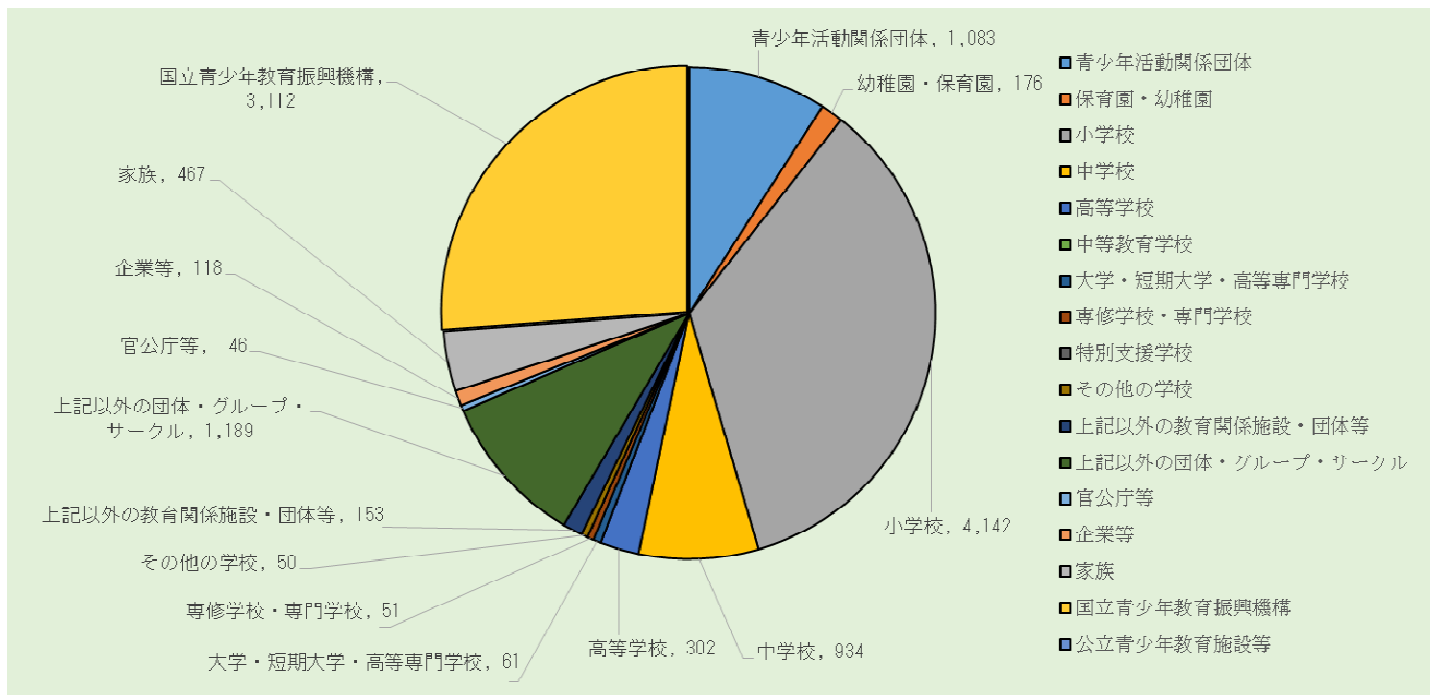
令和2（2020）年度：令和2年4月10日～5月10日



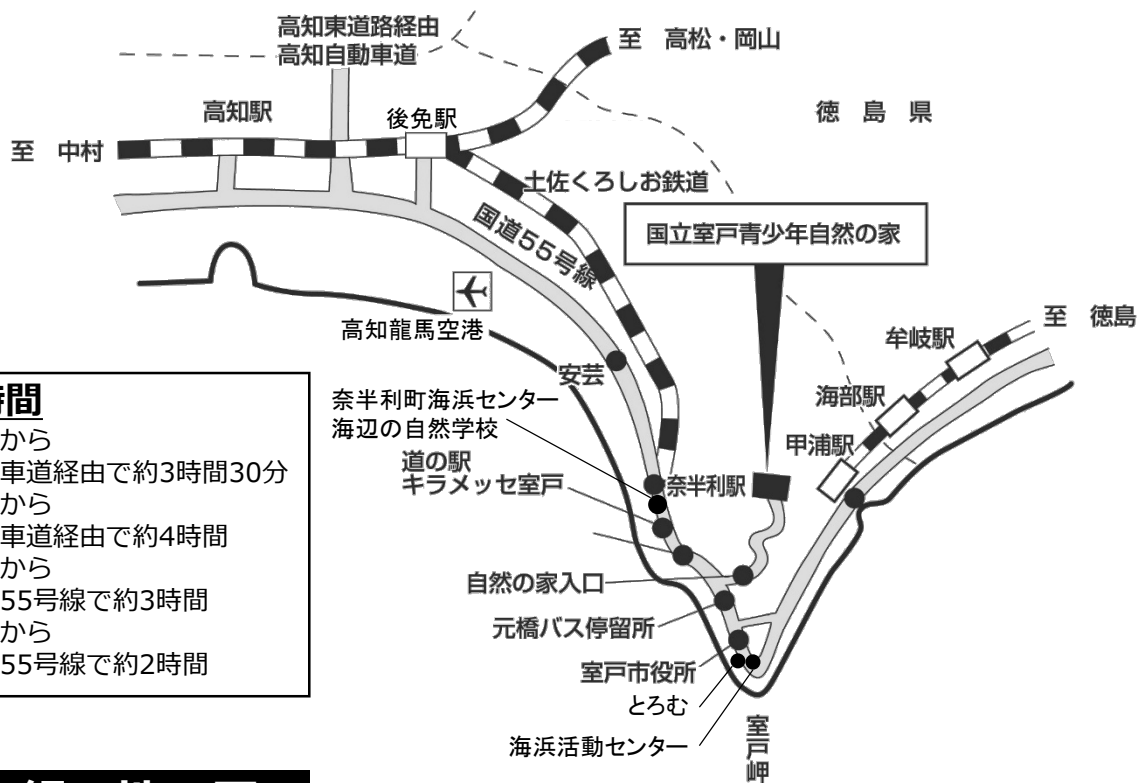
【月別稼働数】



【団体種別稼働数】



交通案内

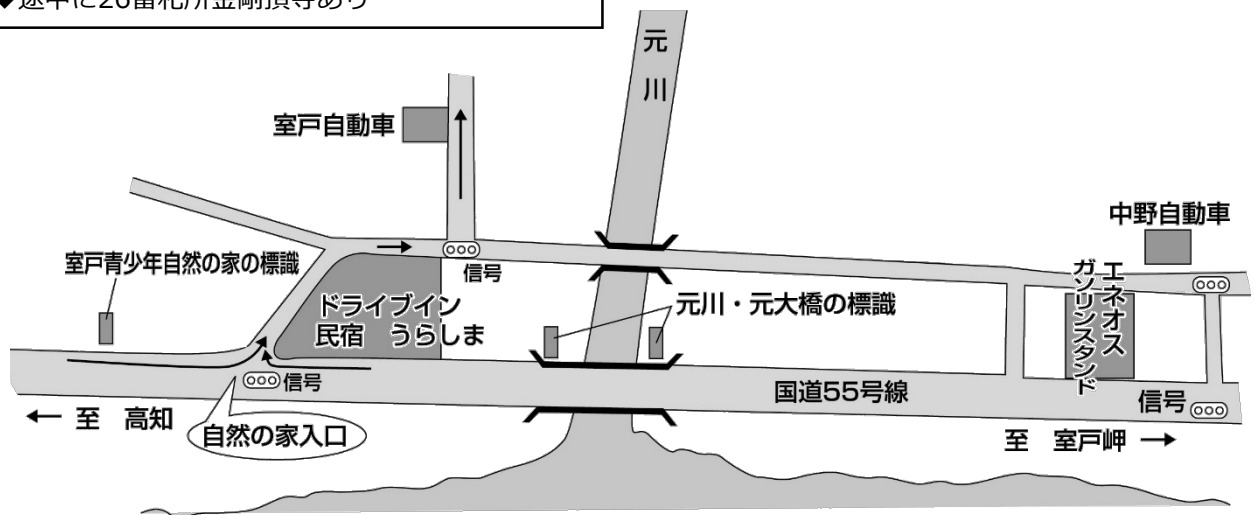


所要時間

- ◆高松市から
自動車道経由で約3時間30分
- ◆松山市から
自動車道経由で約4時間
- ◆徳島市から
国道55号線で約3時間
- ◆高知市から
国道55号線で約2時間

詳細地図

- ◆自然の家の標識から当所まで約5 km、約15分
- ◆途中に26番札所金剛頂寺あり



独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立室戸青少年自然の家

〒781-7108 高知県室戸市元乙1721

Tel. 0887-23-2313 Fax. 0887-23-2484

E-mail. muroto@niye.go.jp

ホームページ. <https://muroto.niye.go.jp/>